

# 平成 29 年度富山県計画に関する 事後評価

平成 3 0 年 10 月  
富山県

### 3. 事業の実施状況

平成29年度富山県計画に規定した事業について、平成29年度終了時における事業の実施状況について記載。

事業の区分	1. 医療機能の分化・連携に関する事業	
事業名	【NO. 1 (医療分)】 ICT を活用した地域医療ネットワーク基盤の整備 (ICT医療推進事業)	【総事業費】 1,991 千円
事業の対象となる区域	県全体	
事業の実施主体	富山県	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	富山県では、少子化・人口減少ともに、全国水準を上回るペースで高齢化が進んでおり、今後更に一人暮らし高齢者、認知症高齢者等の増加が見込まれるなか、ICT を活用した先進的かつ効率的・効果的な医療・保健・福祉連携体制の整備が必要。 アウトカム指標： ICT を活用した、二次医療圏の中核病院と三次医療を提供する病院間の地域連携パス数 9 件/月 (H28) →20 件/月以上 (H29)	
事業の内容 (当初計画)	県内の医療機関で切れ目なく安心して医療を受けられるため、二次医療圏の中核病院と、高度で先進的、専門的な三次医療を提供する病院との情報連携ネットワークの構築に取り組む。	
アウトプット指標 (当初の目標値)	ネットワーク参加病院数： 2 病院 (県立中央病院、黒部市民病院)	
アウトプット指標 (達成値)	ネットワーク参加病院数： 2 病院 (県立中央病院、黒部市民病院)	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標： ICT を活用した、二次医療圏の中核病院と三次医療を提供する病院間の地域連携パス数 9 件/月 (H28) → 5 件/月 (H29)  (1) 事業の有効性 圏域を超えた広域連携が図られ、急性期医療における病病連携が推進された。 (2) 事業の効率性 ICT を活用することにより、画像送付など効率的な情報連携が行われた。	
その他		

事業の区分	1. 医療機能の分化・連携に関する事業	
事業名	【NO. 2 (医療分)】 病床の機能分化・連携を推進するための基盤整備 (回復期機能病床確保事業)	【総事業費】 44,493 千円
事業の対象となる区域	県全体	
事業の実施主体	病院、富山県	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	富山県においては、回復期機能病床が不足していることから、病床の確保が必要。 アウトカム指標： 整備予定の病床数 回復期機能病床 1,440 床	
事業の内容 (当初計画)	急性期病床等から回復期機能病床への転換促進を図るため、 ①医療機関を対象とした、病床転換に関するセミナーを開催 ②レセプト情報等をデータベース化し、機能別病床の需要と供給状況を把握し、医療機関に提供 ③病床転換を行う医療機関に対し必要な経費を支援	
アウトプット指標 (当初の目標値)	セミナーの開催 5 回 レセプトデータ提供施設数 25 箇所 回復期機能整備施設数 25 箇所	
アウトプット指標 (達成値)	セミナーの開催 5 回 レセプトデータ提供施設数 2 箇所 回復期機能整備施設数 2 箇所	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標： 回復期機能病床 769 床 (H26) → 1,342 床 (H28) → 1,500 床 (H29) <b>(1) 事業の有効性</b> 本事業により、回復期機能病床への転換を希望する県内医療機関の円滑な転換が図られ、回復期機能病床を整備する施設が増加した。 <b>(2) 事業の効率性</b> 転換に必要な基準額等を示すことにより、共通認識のもとで整備が行われ、効率的な転換が図られた。	
その他		

事業の区分	1. 医療機能の分化・連携に関する事業	
事業名	【NO. 3 (医療分)】 医療介護連携体制整備事業	【総事業費】 10,122 千円
事業の対象となる区域	県全体	
事業の実施主体	富山県 (富山県理学療法士会等に委託)、県医師会	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	富山県では、不足している回復期機能病床の確保が必要であり、これに伴い質の高いリハビリ専門職の確保が必要。また、慢性期機能病床の適正化を図る必要があり、長期入院の傾向にある慢性期の患者の在院日数の短縮や再入院を防ぐことが必要。	
	アウトカム指標：整備予定の病床数 回復期機能病床 1,440 床 慢性期機能病床 5,565 床(H26)→2,643 床(H37)	
事業の内容 (当初計画)	医療、介護従事者、リハビリ専門職の多職種による連携協議会等の開催	
アウトプット指標 (当初の目標値)	①医師・看護師・リハビリ専門職連携協議会 (2 回、200 名) ②医療 (医科、歯科)・介護連携協議会 (8 回、200 名) ③医療介護連携研修会 (主任介護支援専門員対象：5 回 1 コース、30 名、主任介護支援専門員・介護支援専門員対象：3 回 2 コース、100 名)	
アウトプット指標 (達成値)	①医師・看護師・リハビリ専門職連携協議会 (2 回、166 名) ②医療 (医科、歯科)・介護連携協議会 (4 回、240 名) ③医療介護連携研修会 (主任介護支援専門員対象：5 回 1 コース、14 名、主任介護支援専門員・介護支援専門員対象：3 回 2 コース、58 名)	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標： 回復期機能病床 769 床(H26) → 1,342 床(H28) → 1,500 床(H29) 慢性期機能病床 5,565 床(H26) → 5,489 床(H28) → 5,478 床(H29)	
	(1) 事業の有効性 医療介護連携研修受講前と比較して、医療等との連携がとりやすくなったと感じる介護支援専門員が 54 名いた。医療関係者から介護支援専門員が頼りにされていることを実感し、今後はより積極的に連携を図りたい等、医療連携への抵抗感が軽減した。	

	<p><b>(2) 事業の効率性</b></p> <p>富山県理学療法士会等に委託し効率的に実施した。  また、県全体を対象とし、一箇所開催としていること  により、各地域での特性を踏まえたグループワークの  展開ができた。</p>
その他	

事業の区分	1. 医療機能の分化・連携に関する事業	
事業名	【NO. 4 (医療分)】 病床の機能分化・連携を推進するための基盤整備 (救急・障害者診療の機能分担・連携体制整備事業)	【総事業費】 65,698 千円
事業の対象となる区域	県全体	
事業の実施主体	富山県歯科医師会	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	病床の機能分化・連携を進めるためには、急性期機能を担う医療機関と通常の診療を行う医療機関との適切な役割分担を図り、急性期機能を担う医療機関における負担軽減を図る必要がある。 アウトカム指標： 平均在院日数 30.6 日 (H26)→30.4 日 (H29) 急性期機能病床 6,121 床 (H26)→3,254 床 (H37)	
事業の内容 (当初計画)	休日歯科診療及び心身障害児 (者) 歯科診療を行う富山県歯科保健医療総合センターの施設・設備の整備に対して補助するもの	
アウトプット指標 (当初の目標値)	休日歯科診療所患者数 (年間) 1,200 人 心身障害児 (者) 患者数 (年間) 2,800 人	
アウトプット指標 (達成値)	休日歯科診療所患者数 (年間) 1,117 人 心身障害児 (者) 患者数 (年間) 2,778 人	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標： 病院報告 (H29) の結果が公表されておらず、平均在院日数は観察できなかった。 急性期機能病床 6,121 床 (H26) → 4,996 床 (H28) → 4,732 床 (H29) <b>(1) 事業の有効性</b> 富山県歯科保健医療総合センターの整備を行うことで休日等歯科診療体制がいっそう強化され、急性期病院の負担軽減につながり、病床の機能分化にも有効であったと考える。 <b>(2) 事業の効率性</b> 施設・設備整備に当たっては、県歯科医師会において入札を実施することにより、コストの低下を図っている。	
その他		

事業の区分	1. 医療機能の分化・連携に関する事業	
事業名	【NO. 5 (医療分)】 病床機能確保円滑化事業	【総事業費】 40,000 千円
事業の対象となる区域	県全体	
事業の実施主体	富山県、富山大学附属病院	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	○富山県では、地域医療構想達成のため、2025 年までに高度急性期・急性期病床から回復期機能病床への大規模な病床転換が見込まれる。 ○地域医療構想の実現のためには、限られた医療資源を有効に活用しながら、病床の機能転換を進める必要がある。	
	アウトカム指標： 整備予定の病床数 回復期機能病床 1,440 床	
事業の内容（当初計画）	機能転換後の病床で必要となる医療資源の配置、病床のあり方を検証し、不足する回復期機能病床への転換につなげる。	
アウトプット指標（当初の目標値）	検証結果をフィードバックする病院数：24 病院 検証結果を用いた協議会の開催：2 回	
アウトプット指標（達成値）	検証結果をフィードバックする病院数：24 病院 検証結果を用いた協議会の開催：1 回	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標： 回復期機能病床 769 床(H26)→1,342 床(H28)→1,500 床(H29)	
	<p><b>(1) 事業の有効性</b> 地域医療構想の実現を想定した必要医師数の調査・分析・研究を実施し、医師の派遣・調整を実施することで、医師の充足に有効。</p> <p><b>(2) 事業の効率性</b> 各医療機関が病床機能の転換を進める中、現時点での転換状況や今後の転換見込みを踏まえた必要医師数の調査・分析・研究を計画的に実施し、地域医療構想の実現に結びつける。</p>	
その他		

事業の区分	2. 居宅等における医療の提供に関する事業	
事業名	【NO. 6 (医療分)】 在宅医療の実施に係る拠点の整備 (富山県在宅医療支援センター運営事業・ 在宅医療推進加速化事業)	【総事業費】 21,817 千円
事業の対象となる区域	県全体	
事業の実施主体	富山県 (県医師会に委託)	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	今後増大する在宅医療等のニーズに対応するためには、郡市医師会との連携が必要となることから、郡市医師会在宅医療支援センターを拠点として、在宅医療を担う人材育成や普及啓発等が必要。  アウトカム指標： ・在宅患者訪問診療実施件数 5,043 件 (H26.9) → 現状以上 (H29) ・訪問診療に取り組む診療所数 207 (H26) → 230 (H29)	
事業の内容 (当初計画)	①平成 27 年度に開設した「富山県在宅医療支援センター(県医師会委託)」において在宅医療を担う医師の確保・育成、在宅医療の普及啓発等を総合的に取り組む。 ②医療・介護の多職種連携、在宅医療の普及啓発、開業医グループの活動やグループ化などを支援するため、郡市医師会が設置する在宅医療支援センターの運営を支援する。	
アウトプット指標 (当初の目標値)	・訪問診療を行っている診療所の増加 (12 施設) ・在宅医療を行う開業医グループへの参加医師の増加 (4 人)	
アウトプット指標 (達成値)	・在宅医療を行う開業医グループへの参加医師の増加 (1 人)	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標： 在宅患者訪問診療実施件数、訪問診療に取り組む診療所数は調査中のため観察できなかった。 代替的な指標として在宅療養支援病院・診療所⇒増加した 72 箇所 (H28) →74 箇所 (H29)  <b>(1) 事業の有効性</b> 本事業の実施により、新たに在宅医療に取り組む医師の新規参入を目的とした研修会や各在宅医グループの活動報	

	<p>告会の開催及び、在宅医療に関する資源や制度、サービス等に関する情報を発信することにより在宅医療への理解を促すことに尽力したが、目標は達成できなかった。平成 30 年度は、更なる普及・啓発活動、診療所への在宅医療に係る意識調査等により目標達成に向け取り組む。</p> <p><b>(2) 事業の効率性</b></p> <p>各郡市医師会の連携が円滑に図られ、効率的な事業運営につながった。</p>
その他	

事業の区分	2. 居宅等における医療の提供に関する事業	
事業名	【NO. 7 (医療分)】 在宅医療に係る医療連携体制の運営支援 (医療系ショートステイ病床確保事業)	【総事業費】 8,505 千円
事業の対象となる区域	県全体	
事業の実施主体	富山県	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	介護家族の急病や急用に対応するため、療養者本人を急遽受入れることのできる専用病床（バックアップ体制）が必要。 アウトカム指標： 在宅患者訪問診療実施件数 5,043 件 (H26.9) → 現状以上(H29)	
事業の内容（当初計画）	在宅療養の安心や介護家族等の負担軽減を図るため、介護家族の急病・急用・レスパイト等のための医療系ショートステイ専用病床を確保する。（1床／医療圏×4医療圏）	
アウトプット指標（当初の目標値）	医療系ショートステイ専用病床の確保（4床／年）	
アウトプット指標（達成値）	医療系ショートステイ専用病床の確保（4床／年）	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標： 在宅患者訪問診療実施件数は調査中のため観察できなかった。代替的な指標として 訪問看護利用者数 6,457 人 (H28) → 6,931 人 (H29) <b>(1) 事業の有効性</b> 緊急にショートステイが必要な在宅療養者のために専用病床を確保することで、在宅療養者の家族の負担軽減及び在宅療養生活上の安心につながった。 <b>(2) 事業の効率性</b> 介護者の負担軽減の側面から、介護者の就労継続への支援や介護離職の防止にも資するものである。	
その他		

事業の区分	2. 居宅等における医療の提供に関する事業	
事業名	【NO. 8 (医療分)】 在宅医療に係る医療連携体制の運営支援 (重症心身障害児(者)在宅医療的々支援 事業)	【総事業費】 14,336千円
事業の対象となる区域	県全体	
事業の実施主体	富山県、事業所等	
事業の期間	平成29年4月1日～平成30年3月31日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニ ーズ	県内に重症心身障害児(者)や医療的々児者を受入れ可能 な事業所が少ないため、受入れ体制の整備をしていく必要 がある。	
	アウトカム指標：短期入所事業所利用量 1,557/人日分(H27)→1,760/人日分(H29)	
事業の内容(当初計画)	重症心身障害児(者)等を受け入れるため、看護師の配置 や医療備品の購入及び施設改修を行う事業所に対し補助す る。	
アウトプット指標(当初 の目標値)	看護師の配置や医療備品の購入及び施設改修を行った事業 所数 0事業所(H28)→4事業所(H29)	
アウトプット指標(達成 値)	医療備品の購入及び施設改修を行った事業所数 0事業所(H28)→2事業所(H29)	
事業の有効性・効率性	事業終了後1年以内のアウトカム指標： 短期入所事業所利用量 1,557/人日分(H27)→1,760/人日分(H29)	
	<p><b>(1) 事業の有効性</b> 重症心身障害児(者)等は身体状況が個別性に富んでお り、それに応じた医療備品や施設改修を行うことで事業所 における受け入れ体制が整備され、サービスの質が高まり サービス利用料の拡大につながった。</p> <p><b>(2) 事業の効率性</b> ホームページや研修等を利用して案内することで、意欲 のある事業所に効率的に働きかけることができた。</p>	
その他		

事業の区分	2. 居宅等における医療の提供に関する事業	
事業名	【NO. 9 (医療分)】 在宅医療に係る医療連携体制の運営支援 (厚生センター地域包括ケア推進支援事業 費)	【総事業費】 891 千円
事業の対象となる区域	県全体	
事業の実施主体	富山県	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	介護が必要な高齢者が病院を退院する際には、入院中から介護支援専門員と連携し退院後の訪問診療・訪問看護・介護・生活支援等が必要に応じて確保されることが必要。	
	アウトカム指標： 在宅患者訪問診療実施件数 5,043 件 (H26.9) → 現状以上 (H29)	
事業の内容 (当初計画)	二次医療圏単位での在宅医療・介護連携を推進するため、各厚生センターが事務局となり、管内市町村、病院、郡市医師会、介護支援専門員協会等の協力を得ながら、入退院に伴う病院とケアマネジャーとの連携に関するルール (秩序や機能を維持するため相互に守るべき取り決め) を策定する。	
アウトプット指標 (当初の目標値)	入退院調整ルールを運用している二次医療圏数 (4 医療圏)	
アウトプット指標 (達成値)	入退院調整ルールを運用している二次医療圏数 (4 医療圏)	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標： 在宅患者訪問診療実施件数は調査中のため観察できなかった。代替的な指標として退院調整漏れ率の減少⇒減少した。 19.3% (H28 年度) →16.6% (H29 年度)	
	<p>(1) 事業の有効性 入退院調整ルール運用開始後、入退院時の情報を医療・介護の関係者が共有する率が高まり、在宅療養者のニーズに応じた在宅医療等が提供された。</p> <p>(2) 事業の効率性 厚生センターでの取組みにより、医療圏内の医療・介護等関係者への周知および運用上の課題等の検討を行い連携方法が明確化するなど、効率的に実施している。</p>	
その他		

事業の区分	2. 居宅等における医療の提供に関する事業	
事業名	【NO.10 (医療分)】 在宅医療推進協議会の設置・運営事業 (富山県あんしん在宅医療・訪問看護推進 会議事業)	【総事業費】 292 千円
事業の対象となる区域	県全体	
事業の実施主体	富山県	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニ ーズ	今後増大する在宅医療ニーズに対応するためには、医療・ 看護・福祉・介護関係者の相互連携・協働が必要となるこ とから、在宅医療や訪問看護、訪問介護等の関係者による 協議の場が必要。	
	アウトカム指標： 訪問診療に取り組む診療所数 207 (H26) → 230 (H29)	
事業の内容 (当初計画)	県において、在宅医療や訪問看護の推進を図るための「あ んしん在宅医療・訪問看護推進会議」を開催	
アウトプット指標 (当初 の目標値)	推進会議の開催回数 (2 回/年)	
アウトプット指標 (達成 値)	推進会議の開催回数 (2 回/年)	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標： 訪問診療に取り組む診療所数は医療施設静態調査の未公表の ため観察できなかった。 代替的な指標として 在宅療養支援病院・診療所 72 箇所 (H28) ⇒74 箇所 (H29) 訪問看護利用者数 6,457 人 (H28) ⇒6,931 人 (H29)	
	(1) 事業の有効性 在宅医療・訪問看護を推進することにより、24 時間対応 の病院・診療所、訪問看護ステーションの利用者が増加し、 県内の在宅医療提供体制が充実した。 (2) 事業の効率性 医療計画と介護保険事業支援計画の策定に向け、両者の 整合性をとる機会を確保することで経費の節減を図った。	
その他		

事業の区分	2. 居宅等における医療の提供に関する事業	
事業名	【NO.11 (医療分)】 訪問看護の促進、人材確保を図るための研修等の実施事業 (訪問看護推進事業)	【総事業費】 500 千円
事業の対象となる区域	県全体	
事業の実施主体	富山県 (富山県看護協会へ委託)	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	在宅医療を推進するために、病院に勤務する看護師と訪問看護師との連携強化を図るとともに、退院支援や地域連携に関する知識を有する看護師を養成する必要がある。	
	アウトカム指標： 訪問看護ステーション研修修了看護師数 33 名 (H26)→50 名 (H29)	
事業の内容 (当初計画)	<p>①在宅ケアアドバイザー派遣事業 (事例検討会)</p> <p>在宅ケアに関する専門的な知識や技術を有する認定看護師等をアドバイザーとして検討会に派遣し、患者・家族の現状やニーズに応じたより質の高いケアが提供できるよう支援する。</p> <p>②医療機関等の看護師の訪問看護ステーション研修</p> <p>医療機関の看護師が訪問看護の現場に赴き、入院患者が適切に在宅へ移行するための連携方法等について学ぶ。</p>	
アウトプット指標 (当初の目標値)	①在宅ケアアドバイザー派遣回数 (2 名×8 回) ②訪問看護ステーション研修 (5 施設、参加者 10 名)	
アウトプット指標 (達成値)	①在宅ケアアドバイザー派遣回数 (2 名×8 回) ②訪問看護ステーション研修 (5 施設、参加者 10 名)	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標： 訪問看護ステーション研修修了看護師数 33 名 (H26)→65 名 (H29)	
	<p>(1) 事業の有効性</p> <p>本事業の実施により、訪問看護ステーションへの支援や訪問看護師の育成・確保に繋がったと考える。</p> <p>(2) 事業の効率性</p> <p>富山県看護協会に委託することで効率的に実施した。</p>	
その他		

事業の区分	2. 居宅等における医療の提供に関する事業	
事業名	【NO.12 (医療分)】 訪問看護の促進、人材確保を図るための研修等の実施 (多機能型訪問看護ステーション整備事業)	【総事業費】 0千円
事業の対象となる区域	県全体	
事業の実施主体	訪問看護ステーション設置者	
事業の期間	平成29年4月1日～平成30年3月31日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	在宅療養を行う患者や介護家族等の安心を支える在宅医療の充実には、往診や訪問看護が24時間365日対応可能な体制を整備することが必要。	
	アウトカム指標：機能強化型訪問看護ステーション利用者数 636人(H28) → 769人(H29)	
事業の内容 (当初計画)	住み慣れた居宅等での療養を継続するため、①病院からの退院支援機能、②訪問看護ステーションによる24時間訪問看護、③訪問看護ステーションと連携した居宅介護支援事業所によるケアマネジメントの提供、④地域に開かれた相談窓口の設置 などを行う多機能型訪問看護ステーションの施設・設備に対する補助を行う。	
アウトプット指標 (当初の目標値)	・大規模な訪問看護ステーションの増加 (拡大1箇所) ・24時間対応体制加算の届出を行っている訪問看護ステーションの割合 (90%)	
アウトプット指標 (達成値)	・大規模な訪問看護ステーションの増加 (0箇所) ・24時間対応体制加算の届出を行っている訪問看護ステーションの割合 (91.9%)	
事業の有効性・効率性	事業終了後1年以内のアウトカム指標： 事業の申請はなく規模拡大のステーションはなかった。	
	<p><b>(1) 事業の有効性</b> 病院との連携強化による退院支援や、訪問看護ステーション24時間対応等により在宅医療の充実が図られたが、今後、事業の周知や保険者等との連携により目標達成を図る。</p> <p><b>(2) 事業の効率性</b> 地域により訪問看護ステーション設置に偏りがあるため、保険者等と連携しながら地域の特性に応じた対応で効率化を図っていく。</p>	
その他		

事業の区分	2. 居宅等における医療の提供に関する事業	
事業名	【NO.13 (医療分)】 訪問看護の促進、人材確保を図るための研修等の実施 (訪問看護支援強化事業・訪問看護師資質向上事業)	【総事業費】 4,578千円
事業の対象となる区域	県全体	
事業の実施主体	富山県 (富山県看護協会への委託事業を含む)	
事業の期間	平成29年4月1日～平成30年3月31日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	24時間365日安定した質の高い訪問看護を提供するため、訪問看護ステーションの運営に対して、また人材育成に対して支援が必要。	
	アウトカム指標： 24時間対応体制加算の届出を行っている訪問看護ステーションの割合 90.2% (H28) →91% (H29)	
事業の内容 (当初計画)	訪問看護を安定的に供給し在宅療養環境の充実に資するため、県看護協会内に設置している「訪問看護ネットワークセンター」において、訪問看護の普及啓発や相談対応、県内各訪問看護ステーションの運営支援等を行う。 また、訪問看護師の資質向上を図るため、「認定看護師教育課程」や「特定行為研修課程」受講にかかる費用を助成する。	
アウトプット指標 (当初の目標値)	「訪問看護ネットワークセンター」における相談件数 683件 (H28) →750件 (H29)	
アウトプット指標 (達成値)	「訪問看護ネットワークセンター」における相談件数 675件 (H29)	
事業の有効性・効率性	事業終了後1年以内のアウトカム指標： 24時間対応体制加算の届出を行っている訪問看護ステーション数の増加 (3事業所) 24時間対応体制加算の届出を行っている訪問看護ステーションの割合 90.2% (H28) → 91.9% (H29) 訪問看護利用者数 6,457人 (H28) → 6,931人 (H29)	
	(1) 事業の有効性 訪問看護ネットワークセンターに専門職員が常駐し支援体制を整えていることで、訪問看護の普及啓発と訪問看護ステーションの相談対応、運営支援を行い利用数が増加し	

	<p>た。</p> <p><b>(2) 事業の効率性</b></p> <p>県内の訪問看護ステーションを統括していることから、様々な情報が集約され、必要な情報をフィードバックするなど、効率的に実施できる。</p>
その他	

事業の区分	2. 居宅等における医療の提供に関する事業	
事業名	【NO. 14 (医療分)】 訪問看護の促進、人材確保を図るための研修等の実施 (あんしん在宅医療 IoT 活用実証事業)	【総事業費】 10,045 千円
事業の対象となる区域	県全体	
事業の実施主体	富山県 (一部委託)	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	在宅療養者や介護家族等の安心を支えるためには、往診や訪問看護が 24 時間 365 日対応可能な体制を整備することが必要であるが、訪問診療を行う医師や訪問看護師等の負担が大きい。	
	アウトカム指標： ・訪問診療に取り組む診療所数 207 (H26) → 230 (H29) ・在宅療養支援診療所の増加 61 箇所 (H28) → 現状以上 (H29) ・在宅患者訪問診療実施件数 5,043 件 (H26.9) → 現状以上 (H29)	
事業の内容 (当初計画)	在宅医療における IoT 活用の実証を通じて、 ①医師や訪問看護師等の負担軽減、 ②患者・家族の安心の確保・QOL の向上等を図り、在宅医療に取り組む医師等に周知することで、県内の在宅医療における IoT 導入を促進する	
アウトプット指標 (当初の目標値)	在宅医療で IoT を活用している医師・訪問看護師数 10 人 (H29)	
アウトプット指標 (達成値)	在宅医療で IoT を活用し、実証事業として実施した医師・訪問看護師数 11 人	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標： 実証事業として各医療圏の一部で実施したため、指標の観察が困難。	
	(1) 事業の有効性 実証に参加いただいた在宅療養者又はご家族からは安心感が得られたとの感想も得られ、一定程度成果があったと考えられる。一方、医療関係者からは、そこまでの負担軽減が感じられたという意見がなかったため、平成 30 年度は	

	<p>医療関係者の負担軽減の面で機能向上を図り実施する。</p> <p><b>(2) 事業の効率性</b></p> <p>本事業の実施によりバイタル計測については、在宅療養者が高齢者であっても、操作が簡単な機器であれば可能であり、かつ実証事業終了後も継続したいという回答が多かった。訪問看護師等も容態が不安定な在宅療養者のバイタルを頻繁に確認できる等、容態が安定している方や独居、施設等様々な状況の比較確認ができ、傾向も確認するなど効率的な事業実施を図った。</p>
その他	

事業の区分	2. 居宅等における医療の提供に関する事業	
事業名	【NO. 15 (医療分)】 訪問看護の促進、人材確保を図るための研修等の実施(訪問看護インフォメーション事業)	【総事業費】 1,800 千円
事業の対象となる区域	県全体	
事業の実施主体	富山県看護協会	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	訪問看護の利用促進及び職員確保を図るため、県民や医療・介護関係者（医師、介護支援専門員、病院地域連携室等）、求職中の看護師等が訪問看護ステーションの所在地や業務の特徴、対応可能な処置、ケ等に関する情報を入手しやすい仕組みづくりが必要である。	
	アウトカム指標： 訪問看護ステーションの利用者の増加 5,712 人(H27) → 6,300 人 (H29) 訪問看護ステーションの看護職員数の増加 常勤換算数 290 人 (H27 年度末) → 340 人 (H29 年度末)	
事業の内容 (当初計画)	富山県訪問看護ネットワークセンターが開設するサイトに、県内すべての訪問看護ステーションの所在地、特徴など各種情報を掲載する。	
アウトプット指標 (当初の目標値)	サイトのアクセス件数の増加 未把握(H27) → 約 6,000 件/年 (H29:改修以降)	
アウトプット指標 (達成値)	サイトのアクセス件数の増加 平成 30 年 3 月 30 日に情報掲載が始まったため、カウントはしていない。	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標： 訪問看護ステーションの利用者の増加 利用者数計 7,000 人 (H30) 訪問看護ステーションの看護職員数の増加 職員数計 370 人 (H30)	
	(1) 事業の有効性 県内すべての訪問看護ステーションの各種情報（所在地、特徴、可能な対応等）を掲載することにより、訪問看護ステーションの情報を得ることでき、訪問看護の利用促進が	

	<p>図られた。また、休職中の看護師等が各種情報を手軽に入手できるため、就職へのあしがかりとなる。</p> <p><b>(2) 事業の効率性</b></p> <p>県内すべての訪問看護ステーションの各種情報が、時間や場所を問わず手軽に入手可能であり、効率が良い。</p>
その他	

事業の区分	2. 居宅等における医療の提供に関する事業	
事業名	【NO.16 (医療分)】 早期退院・地域定着支援のため精神科医療 機関内の委員会への地域援助事業者等の参 画支援事業 (精神科病院早期退院支援事業)	【総事業費】 354 千円
事業の対象となる区域	県全体	
事業の実施主体	県精神保健福祉士協会	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニ ーズ	地域での支援体制が整っていないために、長期間、病院に 入院している患者が多いことから、地域への移行を促進す るため、医療と福祉の連携強化が必要。  アウトカム指標： 精神障害者の入院後 3 ヶ月時点の退院率 60.8% (H25) →64% (H29) 精神障害者の入院後 1 年時点の退院率 85.1% (H25) →91% (H29) 長期在院者数 2,209 人 (H25) →1,811 人 (H29)	
事業の内容 (当初計画)	地域における医療と福祉の連携体制を整備するための人材 育成研修に係る経費に対する支援を行う。	
アウトプット指標 (当初 の目標値)	退院支援人材育成研修開催 (開催回数：2 回、参加人数：80 人)	
アウトプット指標 (達成 値)	退院支援人材育成研修開催 (開催回数：3 回、参加人数：93 人)	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標：精神保健福祉資料 の調査結果が判明しておらず、観察できなかったが、退院 率等は平成 25 年から平成 28 年にかけて概ね向上している。 精神障害者の入院後 3 ヶ月時点の退院率：64% (H28) 精神障害者の入院後 1 年時点の退院率：85% (H28) 長期在院者数：1,927 人 (H29.6)  <b>(1) 事業の有効性</b> 本事業の実施により、病院と地域における支援者の早期 退院・地域定着支援に関する意識の醸成が図られたととも に、顔の見える関係の構築の機会となった。 <b>(2) 事業の効率性</b> 事業主体に事業費の 1/4 の負担を求め、効果的な実施を 図った。	
その他		

事業の区分	2. 居宅等における医療の提供に関する事業	
事業名	【NO. 17 (医療分)】 訪問薬剤管理指導を行おうとする薬局への 研修や実施している薬局の周知 (在宅医療推進訪問薬局支援事業)	【総事業費】 833 千円
事業の対象となる区域	県全体	
事業の実施主体	富山県薬剤師会	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニ ーズ	地域包括ケアシステムの中で、薬局は「かかりつけ薬剤師・ 薬局」として在宅業務の体制を整備することが求められて いる。 アウトカム指標： 訪問服薬指導実績のある薬局の増加 H28：185 施設 → H29：224 施設	
事業の内容（当初計画）	在宅医療に取り組む薬局の増加を目的とした研修会等を開 催し、在宅医療に取り組む薬剤師のスキルアップを図り、 薬局が在宅医療の一翼を担えるよう体制整備を図る。	
アウトプット指標（当初 の目標値）	事例検討会、多職種連携座談会、研修会の開催（計 8 回、 400 人）	
アウトプット指標（達成 値）	事例検討会、多職種連携座談会、研修会の開催（計 11 回、 355 人）	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標： 訪問服薬指導実績のある薬局 H28：185 施設 から H29：224 施設に増加した。  (1) 事業の有効性 症例検討会、多職種連携座談会、研修会の開催により、 在宅医療に取り組む薬局の増加を促進した。 (2) 事業の効率性 (公社) 薬剤師会への補助により、研修等を地域毎に実施 することができ、県全域の薬局について訪問服薬実績数が 増加した。	
その他		

事業の区分	3. 介護施設等の整備に関する事業																																					
事業名	【No.1 (介護分)】 富山県地域密着型介護基盤整備事業	【総事業費】 1,929,680 千円																																				
事業の対象となる区域	富山県全域																																					
事業の実施主体	市町村、事業者																																					
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了																																					
背景にある医療・介護ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模多機能型居宅介護など在宅サービス基盤の整備の推進</li> <li>・小規模特別養護老人ホームや認知症高齢者グループホームなど地域密着型サービス基盤の整備や施設における生活環境の改善</li> </ul> アウトカム指標：特別養護老人ホーム待機者数の減少																																					
事業の内容（当初計画）	<p>①地域密着型サービス施設等の整備に対する助成を行う。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">予定施設等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地域密着型特別養護老人ホーム</td> <td>232 床(8 カ所)</td> </tr> <tr> <td>定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所</td> <td>4 施設</td> </tr> <tr> <td>小規模多機能型居宅介護事業所</td> <td>9 施設</td> </tr> <tr> <td>認知症対応型デイサービスセンター</td> <td>2 施設</td> </tr> <tr> <td>認知症高齢者グループホーム</td> <td>13 施設</td> </tr> <tr> <td>看護小規模多機能型居宅介護事業所</td> <td>1 施設</td> </tr> </tbody> </table> <p>②介護施設等の開設・設置に必要な準備経費に対して支援を行う。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">予定施設等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地域密着型特別養護老人ホーム</td> <td>261 床</td> </tr> <tr> <td>定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所</td> <td>4 施設</td> </tr> <tr> <td>小規模多機能型居宅介護事業所</td> <td>81 床</td> </tr> <tr> <td>認知症高齢者グループホーム</td> <td>207 床</td> </tr> <tr> <td>看護小規模多機能型居宅介護事業所</td> <td>9 床</td> </tr> <tr> <td>特別養護老人ホーム（大規模）</td> <td>1 施設</td> </tr> <tr> <td>訪問看護ステーション（サテライト型事業所）</td> <td>2 施設</td> </tr> </tbody> </table> <p>③介護サービスの改善を図るための既存施設等の改修に対して支援を行う。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">予定施設等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>個室→ユニット化改修</td> <td>16 床</td> </tr> <tr> <td>多床室→ユニット化改修</td> <td>54 床</td> </tr> </tbody> </table>		予定施設等		地域密着型特別養護老人ホーム	232 床(8 カ所)	定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所	4 施設	小規模多機能型居宅介護事業所	9 施設	認知症対応型デイサービスセンター	2 施設	認知症高齢者グループホーム	13 施設	看護小規模多機能型居宅介護事業所	1 施設	予定施設等		地域密着型特別養護老人ホーム	261 床	定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所	4 施設	小規模多機能型居宅介護事業所	81 床	認知症高齢者グループホーム	207 床	看護小規模多機能型居宅介護事業所	9 床	特別養護老人ホーム（大規模）	1 施設	訪問看護ステーション（サテライト型事業所）	2 施設	予定施設等		個室→ユニット化改修	16 床	多床室→ユニット化改修	54 床
予定施設等																																						
地域密着型特別養護老人ホーム	232 床(8 カ所)																																					
定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所	4 施設																																					
小規模多機能型居宅介護事業所	9 施設																																					
認知症対応型デイサービスセンター	2 施設																																					
認知症高齢者グループホーム	13 施設																																					
看護小規模多機能型居宅介護事業所	1 施設																																					
予定施設等																																						
地域密着型特別養護老人ホーム	261 床																																					
定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所	4 施設																																					
小規模多機能型居宅介護事業所	81 床																																					
認知症高齢者グループホーム	207 床																																					
看護小規模多機能型居宅介護事業所	9 床																																					
特別養護老人ホーム（大規模）	1 施設																																					
訪問看護ステーション（サテライト型事業所）	2 施設																																					
予定施設等																																						
個室→ユニット化改修	16 床																																					
多床室→ユニット化改修	54 床																																					

<p>アウトプット指標（当初の目標値）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特別養護老人ホーム 6,071 床 → 6,363 床</li> <li>・ 認知症高齢者グループホーム 2,438 床 → 2,645 床</li> <li>・ 定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所 11 カ所 → 15 カ所</li> <li>・ 認知症対応型デイサービスセンター 74 カ所 → 76 カ所</li> <li>・ 小規模多機能型居宅介護事業所 83 カ所 → 92 カ所</li> <li>・ 看護小規模多機能型居宅介護事業所 5 カ所 → 6 カ所</li> <li>・ 既存の特別養護老人ホームのユニット化改修 2 施設</li> </ul>
<p>アウトプット指標（達成値）</p>	<p>・ 定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所 11 カ所 → 12 カ所  （他事業については、計画期間内に整備が完了しなかったため翌年度に繰り越し）</p>
<p>事業の有効性・効率性</p>	<p><b>（１）事業の有効性</b>  地域密着型サービス施設等の整備が進み、介護が必要になっても住み慣れた地域で生活できる基盤の構築が図られた。</p> <p><b>（２）事業の効率性</b>  施設整備の補助にあたっては、日頃から市町村及び事業者との連絡を密にとり、整備内容及びスケジュールの変更に伴う手続の迅速化を図った。</p>
<p>その他</p>	

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業																	
事業名	【NO. 18 (医療分)】 地域医療支援センターの運営 (地域枠に係る修学資金の貸与事業、無料職業紹介事業、定年退職後の医師の活用事業を含む) (地域医療支援センター運営事業)	【総事業費】 787 千円																
事業の対象となる区域	県全体																	
事業の実施主体	富山県																	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了																	
背景にある医療・介護ニーズ	<p>県内の人口 10 万人当たりの医師数は全国平均を上回っているものの、富山医療圏以外の地域では全国平均値を下回っている。特に急性期医療を担う公的病院等で医師が不足しており、医師確保対策が必要である。</p> <p>アウトカム指標：</p> <table border="0"> <tr> <td>人口 10 万人当たり医師数</td> <td>248.2 人 (H26)</td> <td>→270 人 (H33)</td> <td rowspan="5">} 現状以上</td> </tr> <tr> <td>新川圏</td> <td>195.2 人 (H26)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>富山圏</td> <td>279.4 人 (H26)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>高岡圏</td> <td>192.6 人 (H26)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>砺波圏</td> <td>202.0 人 (H26)</td> <td></td> </tr> </table>		人口 10 万人当たり医師数	248.2 人 (H26)	→270 人 (H33)	} 現状以上	新川圏	195.2 人 (H26)		富山圏	279.4 人 (H26)		高岡圏	192.6 人 (H26)		砺波圏	202.0 人 (H26)	
人口 10 万人当たり医師数	248.2 人 (H26)	→270 人 (H33)	} 現状以上															
新川圏	195.2 人 (H26)																	
富山圏	279.4 人 (H26)																	
高岡圏	192.6 人 (H26)																	
砺波圏	202.0 人 (H26)																	
事業の内容 (当初計画)	<p>地域医療に従事する医師を確保し、その定着を図るため、医師不足病院への医師のあっせん (無料職業紹介) 等を行う地域医療支援センターを設置し、その運営を行う。</p> <p>①ドクターバンク事業 ②県内公的病院医師不足調査 ③医学部進学者調査 ④キャリア形成事業</p>																	
アウトプット指標 (当初の目標値)	医師のあっせん数年 3 人以上、キャリア形成プログラム作成数 1、地域枠卒業医師数に対するキャリア形成プログラム参加医師数の割合 8 割以上																	
アウトプット指標 (達成値)	医師のあっせん数年 9 人、キャリア形成プログラム作成数 1、地域枠卒業医師数に対するキャリア形成プログラム参加医師数の割合 10 割																	
事業の有効性・効率性	<p>事業終了後 1 年以内のアウトカム指標：</p> <p>医師・歯科医師・薬剤師調査が 2 年に 1 度の調査であり、観察できなかったが、医師数は平成 26 年から平成 28 年にかけて増加している。</p> <table border="0"> <tr> <td>人口 10 万人当たり医師数</td> <td>256.6 人 (H28)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>新川圏</td> <td>211.7 人 (H28)</td> <td>富山圏</td> <td>311.4 人 (H28)</td> </tr> <tr> <td>高岡圏</td> <td>203.6 人 (H28)</td> <td>砺波圏</td> <td>213.2 人 (H28)</td> </tr> </table>		人口 10 万人当たり医師数	256.6 人 (H28)			新川圏	211.7 人 (H28)	富山圏	311.4 人 (H28)	高岡圏	203.6 人 (H28)	砺波圏	213.2 人 (H28)				
人口 10 万人当たり医師数	256.6 人 (H28)																	
新川圏	211.7 人 (H28)	富山圏	311.4 人 (H28)															
高岡圏	203.6 人 (H28)	砺波圏	213.2 人 (H28)															

	<p><b>(1) 事業の有効性</b>          本事業の実施により、県内での医師確保に必要な基本情報を把握し、各種の医師確保事業に活用することができた。</p> <p><b>(2) 事業の効率性</b>          各病院が求人募集情報を事前登録することで、求職者に対し速やかに斡旋できるため、効率的であると考えます。</p>
その他	

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 19 (医療分)】 地域医療支援センターの運営 (地域枠に係る修学資金の貸与事業、無料職業紹介事業、定年退職後の医師の活用事業を含む) (地域医療確保・再生修学資金)	【総事業費】 167,376 千円
事業の対象となる区域	県全体	
事業の実施主体	富山県	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	急性期医療を担う公的病院等や産科や小児科などの特定診療科で医師が不足しており、医師確保対策が必要である。 アウトカム指標： 小児 1 万対小児科医数 12.1 人 (H26) → 12 人 (H33) 以上維持 出生千対産科医数 12.3 人 (H26) → 13 人 (H33)	
事業の内容 (当初計画)	①国の緊急医師確保対策及び骨太方針 2009 に基づき定員を増員した富山大学及び金沢大学の特別枠入学生に対し、卒業後に公的病院等の特定診療科 (産科、小児科、小児外科、麻酔科、救急科、総合診療) で勤務することを返還免除要件とする「地域医療確保修学資金」を貸与。 ②県内において、特定診療科 (小児科、小児外科、産科、麻酔科、救急科、総合診療科) や公的病院等での診療従事を志望する医学生に「地域医療再生修学資金」を貸与。	
アウトプット指標 (当初の目標値)	①地域医療確保修学資金貸与医学生 新規 12 人 ②地域医療再生修学資金貸与医学生 新規 20 人	
アウトプット指標 (達成値)	①地域医療確保修学資金貸与医学生 新規 12 人 ②地域医療再生修学資金貸与医学生 新規 22 人	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標： 医師・歯科医師・薬剤師調査が 2 年に 1 度の調査であり、観察できなかったが、医師数は平成 26 年から平成 28 年にかけて増加している。 小児 1 万対小児科医数 12.8 人 (H28) 出生千対産科医数 14.0 人 (H28) <b>(1) 事業の有効性</b> 医学生に修学資金を貸与することにより、県内の医師数が確実に増加している。 <b>(2) 事業の効率性</b>	

	診療科を限定した制度にすることにより、医師不足が顕著な診療科医師を効率的に増やすことができる。
その他	

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業																			
事業名	【NO. 20 (医療分)】 地域医療対策協議会における調整経費事業 (地域医療対策協議会調整経費事業)	【総事業費】 864 千円																		
事業の対象となる区域	県全体																			
事業の実施主体	富山県																			
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了																			
背景にある医療・介護ニーズ	<p>公的病院において医師が不足しており、また、県内医師の高齢化が進行しており、医師確保対策が必要。</p> <p>アウトカム指標：</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">人口 10 万人当たり医師数</td> <td style="text-align: center;">248.2 人 (H26)</td> <td style="text-align: center;">→270 人 (H33)</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">新川圏 195.2 人 (H26)</td> <td></td> <td rowspan="4" style="font-size: 3em; vertical-align: middle;">}</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">富山圏 279.4 人 (H26)</td> <td></td> <td rowspan="4" style="vertical-align: middle;">現状以上</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">高岡圏 192.6 人 (H26)</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">砺波圏 202.0 人 (H26)</td> <td></td> </tr> </table>		人口 10 万人当たり医師数	248.2 人 (H26)	→270 人 (H33)			新川圏 195.2 人 (H26)		}		富山圏 279.4 人 (H26)		現状以上		高岡圏 192.6 人 (H26)			砺波圏 202.0 人 (H26)	
人口 10 万人当たり医師数	248.2 人 (H26)	→270 人 (H33)																		
	新川圏 195.2 人 (H26)		}																	
	富山圏 279.4 人 (H26)			現状以上																
	高岡圏 192.6 人 (H26)																			
	砺波圏 202.0 人 (H26)																			
事業の内容 (当初計画)	富山県医療対策協議会及び各医療圏に設置している地域医療推進対策協議会で定める施策について、計画の進捗及び達成状況に関係者間において検証し、次の施策へつなげるための調整を行う。																			
アウトプット指標 (当初の目標値)	地域医療推進対策協議会の開催 (各医療圏 1 回)																			
アウトプット指標 (達成値)	地域医療推進対策協議会の開催 (各医療圏 3 回)																			
事業の有効性・効率性	<p>事業終了後 1 年以内のアウトカム指標：医師・歯科医師・薬剤師調査が 2 年に 1 度の調査であり、観察できなかったが、医師数は平成 26 年から平成 28 年にかけて増加している。</p> <p>人口 10 万人当たり医師数 256.6 人 (H28)</p> <p>新川圏 211.7 人 (H28) 富山圏 311.4 人 (H28)</p> <p>高岡圏 203.6 人 (H28) 砺波圏 213.2 人 (H28)</p> <p><b>(1) 事業の有効性</b> 医療圏ごとに協議会を開催することにより、地域の実情に応じた課題等について検討することができた。</p> <p><b>(2) 事業の効率性</b> 地域医療構想調整会議と同日に開催するなど、効率的に事業を行った。</p>																			
その他																				

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 21 (医療分)】 地域医療再生臨床研修医確保総合対策 事業	【総事業費】 10,847 千円
事業の対象となる区域	県全体	
事業の実施主体	富山県臨床研修病院連絡協議会	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	急性期医療を担う公的病院等で医師が不足しており、医師確保対策が必要である。 アウトカム指標： 初期研修医マッチング数 56 人 (H25) →毎年 60 人程度	
事業の内容 (当初計画)	富山県医師会、県内臨床研修病院及び富山県で組織する富山県臨床研修病院連絡協議会を設置し、富山大学医学生の県内定着及び県外医学部進学者のUターン促進を図り、初期研修医の確保や後期研修医の定着など総合的な医師確保対策を実施する。 <主な実施内容> 全国合同就職説明への出展、県内病院見学会やレジデントカフェの開催、病院の臨床研修プログラム改善支援など	
アウトプット指標 (当初の目標値)	毎年 60 人程度の初期研修医の確保を目指し、全国合同就職説明への出展、富山県臨床研修病院合同説明会の開催 (参加者 50 名)、県内病院見学会 (参加者 30 名) やレジデントカフェの開催 (参加者 65 名)、病院の臨床研修プログラム改善支援 (5 病院へ支援) などを実施	
アウトプット指標 (達成値)	全国合同就職説明への出展、富山県臨床研修病院合同説明会の開催 (参加者 60 名)、県内病院見学会 (参加者 43 名) やレジデントカフェの開催 (参加者 82 名)、病院の臨床研修プログラム改善支援 (6 病院へ支援) などを実施	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標：マッチングにおいて 73 名の初期研修医を確保 (H29) <b>(1) 事業の有効性</b> 県内の臨床研修病院の連携を強化され、県内初期研修医確保数が増えている。 <b>(2) 事業の効率性</b> 県内臨床研修病院が情報を共有することで、効率的に連携体制の強化が図られた。	
その他		

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 22 (医療分)】 産科・救急・小児等の不足している診療科の医師確保支援事業 (産科医等確保支援事業)	【総事業費】 124,161 千円
事業の対象となる区域	県全体	
事業の実施主体	医療機関	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	分娩を取り扱う病院等の医療機関や、産科・産婦人科医師が減少傾向にあるため、処遇改善を通じて、産科医等の確保を図る必要がある。 アウトカム指標： 出生千対産科医数 12.3 人 (H26) →13 人 (H33) 手当支給施設の産科・産婦人科医師数 常勤 59 人、非常勤 (常勤換算) 21.25 人 (H29.2)	
事業の内容 (当初計画)	産科・産婦人科医師及び助産師の処遇を改善し、その確保を図るため、分娩手当等を支給する医療機関に対し、その費用の一部を分娩取扱件数に応じて補助する。	
アウトプット指標 (当初の目標値)	手当支給者数 産科医 125 人 助産師 99 人 (H29) 手当支給施設数 21 施設 産科医等の処遇改善に取り組む医療機関数 21 施設	
アウトプット指標 (達成値)	産科医等の処遇改善に取り組む医療機関数 21 施設	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標： 医師・歯科医師・薬剤師調査が 2 年に 1 度の調査であり、観察できなかったが、医師数は平成 26 年から平成 28 年にかけて増加している。 出生千対産科医数 14.0 人 (H28) <b>(1) 事業の有効性</b> 本事業の実施により、過酷な労働下で働く産科医等の処遇改善を図ることができた。 <b>(2) 事業の効率性</b> 1 分娩あたりに対する手当に対し補助しており、実績に見合った助成をしている。	
その他		

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 23 (医療分)】 産科・救急・小児等の不足している診療科の医師確保支援事業 (新生児医療担当医確保事業)	【総事業費】 3,755 千円
事業の対象となる区域	県全体	
事業の実施主体	病院	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	適切な周産期医療の提供のためには、周産期医療整備指針に基づくNICU病床数を維持するとともに、そのNICU病床に従事するマンパワーの確保が必要である。そのため、過酷な勤務状況にあり、不足している新生児医療担当医の処遇改善が必要。	
	アウトカム指標： ・ 県内NICU病床数の維持 (27 床) ・ 出生千人当たり新生児医療担当医数 3.7 人 (H27) →3.7 人 (H32)	
事業の内容 (当初計画)	過酷な勤務状況にある新生児医療担当医(新生児科医)の処遇を改善するため、NICU(診療報酬の対象となるものに限る。)へ入室する新生児を担当する医師に対し、手当を支給するための財政支援を行う。	
アウトプット指標 (当初の目標値)	新生児担当医の処遇改善に取り組む医療機関数 3 施設	
アウトプット指標 (達成値)	新生児担当医の処遇改善に取り組む医療機関数 3 施設 手当支給者数 延 650 人	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標：県内NICU病床数は 27 床を維持できた。医師・歯科医師・薬剤師調査が 2 年に 1 度の調査であり、医師数は観察できなかったが、平成 26 年から平成 28 年にかけて増加している。 ・ 出生千対産科医数 14.0 人 (H28)	
	(1) 事業の有効性 医療機関への財政的な支援により、新生児担当医の処遇改善に取り組まれた。 (2) 事業の効率性 1 回の新生児の受入れに対する手当に対し補助しており、実績に見合った助成をしている	
その他		

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 24 (医療分)】 産科・救急・小児等の不足している診療科の医師確保支援事業 (救急科専門医等育成支援事業)	【総事業費】 2,449 千円
事業の対象となる区域	県全体	
事業の実施主体	富山県臨床研修病院連絡協議会	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	ドクターヘリ導入を契機に県立中央病院の救命救急体制は向上しており、これを契機として、救急医の育成確保を進め、県全体の救急医療体制の充実強化をめざす。	
	アウトカム指標： 人口 10 万人当たり救急科専門医数 1.9 人 (H26) →3.0 人 (H31)	
事業の内容 (当初計画)	<p>①県立中央病院での研修 ドクターヘリを活用した研修を通じて、初期研修医の救急医療の技術向上を図る。</p> <p>②最先端の医療を学ぶための先進地研修 県内病院の救急科専門医養成プログラム等に基づく国内外の先進地での研修費用を助成する。</p> <p>③専門医養成プログラムのPR 全国最大規模の病院説明会に「富山型救急科専門医養成プログラム」として出展</p> <p>④スキルアップセミナー (救急特別編) の開催</p> <p>⑤全国的に著名な救急医を講師としたセミナーの開催</p>	
アウトプット指標 (当初の目標値)	後期研修医又は救急科専門医 1～3 人程度	
アウトプット指標 (達成値)	後期研修医 2 人	
事業の有効性・効率性	<p>事業終了後のアウトカム指標： 医師・歯科医師・薬剤師調査が 2 年に 1 度の調査であり、観察できなかったが、医師数は平成 26 年から平成 28 年にかけて増加している。</p> <p>人口 10 万人当たり救急科専門医数 2.3 人 (H28)</p>	

	<p><b>(1) 事業の有効性</b> 救急科専門医を育成確保することで、県全体の救急医療体制の充実強化が期待できる。</p> <p><b>(2) 事業の効率性</b> 県内4病院の救急科専門医が情報共有することにより、効率的に指導体制が強化されている。</p>
その他	

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 25 (医療分)】 女性医師等の離職防止や再就業の促進 事業 (女性医師等就労支援事業)	【総事業費】 4,500 千円
事業の対象となる区域	県全体	
事業の実施主体	富山県 (富山県医師会へ委託)	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニ ーズ	近年、女性医師数が増加する中、女性医師の離職防止や復職支援、勤務環境改善等がますます重要となっている。 アウトカム指標： 病院に勤務する女性医師の割合 17.7% (H26) → 20%程度	
事業の内容 (当初計画)	①相談窓口の設置 設置場所：県医師会 (嘱託職員 1 名) ②県内病院への巡回相談、助言・指導 女性医師が勤務する県内病院を対象に、県医師会の女性医師 (担当理事 1 名 + 協力医師 (各回 1 名)) を派遣し、院長等への勤務環境改善の啓発や、女性医師からの勤務状況をヒアリング	
アウトプット指標 (当初の目標値)	巡回相談、助言・指導を行う病院数 (3 病院)	
アウトプット指標 (達成値)	巡回相談 1 病院、助言・指導 9 件	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標： 医師・歯科医師・薬剤師調査が 2 年に 1 度の調査であり、観察できなかったが、女性医師の割合は平成 26 年から平成 28 年にかけて増加している。 病院に勤務する女性医師の割合 18.8% (H28) <b>(1) 事業の有効性</b> 本事業により、女性医師から様々な相談に応じることで、女性医師の離職を未然に防ぐ効果が期待される。 <b>(2) 事業の効率性</b> 県医師会に相談窓口を設置することで、常に相談に応じることができ、医師も相談しやすく、効率的な実施となっている。	
その他		

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 26 (医療分)】 女性医師等の離職防止や再就業の促進 事業 (女子医学生等定着支援事業)	【総事業費】 2,000 千円
事業の対象となる区域	県全体	
事業の実施主体	富山県医師会	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	近年、女性医師数が増加する中、女性医師の離職防止や復職支援、勤務環境改善等がますます重要となっている。 アウトカム指標： 病院に勤務する女性医師の割合 17.7% (H26) → 20%程度	
事業の内容 (当初計画)	①講演会や若手医師との子育て座談会 忙しい中での子どもとの接し方、子育てに対する不安等へ助言 ②富山県医学会交流カフェ カフェ形式で相談窓口を設置 ③富山大学医学生への講義 県内女性医師をモデルにキャリアデザインの重要性等を講義 ④ワークライフバランス探究講演会	
アウトプット指標 (当初の目標値)	講演会等の参加者 100 人、講義受講者 100 人	
アウトプット指標 (達成値)	講義受講者等 243 人	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標： 医師・歯科医師・薬剤師調査が 2 年に 1 度の調査であり、観察できなかったが、女性医師の割合は平成 26 年から平成 28 年にかけて増加している。 病院に勤務する女性医師の割合 18.8% (H28) <b>(1) 事業の有効性</b> 本事業により、女性医師や女子医学生がワークライフバランスの理解を深め、離職を未然に防ぐ効果が期待される。 <b>(2) 事業の効率性</b> 女子医学生と女性医師との交流の場を設け、ネットワークを構築することで、女子医学生の県内定着を促進できる。	
その他		

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 27 (医療分)】 歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士の確保対策の推進事業 (歯科衛生士等臨床定着支援事業)	【総事業費】 1,600 千円
事業の対象となる区域	県全体	
事業の実施主体	富山県 (富山県歯科医師会に委託)	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	在宅歯科医療を含め、ニーズが多様化している歯科保健医療に対応できる質の高い歯科衛生士及び歯科技工士を確保することが必要。	
	アウトカム指標： 人口 10 万人当たり就業歯科衛生士 94.5 人 (H26) → 100 人 (H32) 人口 10 万人当たり就業歯科技工士 43.7 人 (H26) → 45 人 (H32)	
事業の内容 (当初計画)	歯科医療技術が日進月歩する中、妊娠・出産前後の歯科衛生士・歯科技工士を対象とした研修を実施し、歯科保健医療に関する技術の低下防止及び最新の専門性の高い知識や技術の習得により、臨床定着を促進する。	
アウトプット指標 (当初の目標値)	歯科衛生士及び歯科技工士のための卒後研修受講者 (100 人)	
アウトプット指標 (達成値)	歯科衛生士及び歯科技工士のための卒後研修受講者 (234 人)	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標： 衛生行政報告例が 2 年に 1 度の調査であり、観察できなかった。 人口 10 万人当たり就業歯科衛生士 99.8 人 (H28) 人口 10 万人当たり就業歯科技工士 41.9 人 (H28)	
	<p>(1) 事業の有効性 本事業の実施により、歯科衛生士・歯科技工士の離職を防止し職場定着を支援している。</p> <p>(2) 事業の効率性 富山県歯科医師会に委託することで効率的に実施した。</p>	
その他		

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 28 (医療分)】 新人看護職員の質の向上を図るための 研修事業 (新人看護職員指導者研修事 業)	【総事業費】 2,220 千円
事業の対象となる区域	県全体	
事業の実施主体	富山県 (富山県看護協会へ委託)	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニ ーズ	新人看護職員の離職を防止し、職場への定着を促進するた め、新人看護職員指導担当者の資質向上と指導体制の強化 が必要である。  アウトカム指標： 新人看護職員離職率 4.3% (H27) → 毎年 4.0%以下	
事業の内容 (当初計画)	新人看護職員の指導に携わる担当者が、新人看護職員研修 ガイドラインに示されている研修の実施に必要な能力を習 得し、研修実施病院等における適切な研修実施体制の強化 を図ることで、新人看護職員の早期離職を防止する。また、 地域における連携体制を構築し、新人看護職員研修の着実 な推進を図る。 ・新人看護職員指導者研修会の開催 ・新人看護職員研修推進会議の開催	
アウトプット指標 (当初 の目標値)	指導者研修会修了者 (200 人程度)	
アウトプット指標 (達成 値)	指導者研修会修了者：修了者 研修責任者教育担当者 65 人、実地指導者 114 人	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標： 新人看護職員離職率は、調査中のため観察できなかった。 4.3% (H27) → 6.0% (H28)  <b>(1) 事業の有効性</b> 本事業の実施により、指導者の資質を向上させ、地域 における連携体制の構築を促進したと考える。 <b>(2) 事業の効率性</b> 富山県看護協会に委託することで効率的に実施した。	
その他		

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 29 (医療分)】 新人看護職員の質の向上を図るための 研修事業 (新人看護職員研修事業)	【総事業費】 93,031 千円
事業の対象となる区域	県全体	
事業の実施主体	病院	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	看護の質の向上や安全な医療の確保、早期離職の防止の観点から、新人看護職員の質の向上を目的とした臨床研修が必要である。 アウトカム指標： 新人看護職員離職率 4.3% (H27) → 毎年 4.0%以下	
事業の内容 (当初計画)	国の新人看護職員研修ガイドラインの項目に基づき、新人看護職員に対する研修を実施する病院に対して、研修等の経費の補助を行う。	
アウトプット指標 (当初の目標値)	新人看護職員研修を実施する医療機関 20 施設 新人看護職員研修受講者数 350 人	
アウトプット指標 (達成値)	新人看護職員研修を実施する医療機関 22 施設 新人看護職員研修受講者数 366 人	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標： 新人看護職員離職率は、調査中のため観察できなかった。 4.3% (H27) → 6.0% (H28) <b>(1) 事業の有効性</b> 本事業の実施により、新人看護職員の早期離職を防止し職場定着を支援している。また、研修受講により、看護の質が向上し、安全な医療の提供につながっている。 <b>(2) 事業の効率性</b> 病院ごとに、国の研修ガイドラインの項目に基づき研修を計画的・効率的に実施している。また、画一的な研修内容ではなく、病院の特性に応じた研修が行われている。	
その他		

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 30 (医療分)】 看護職員の資質の向上を図るための研修事業 (がん専門分野における質の高い看護師育成事業)	【総事業費】 2,865 千円
事業の対象となる区域	県全体	
事業の実施主体	富山県 (富山県看護協会へ委託)	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	がん患者に対する看護ケアの充実を図るため、臨床実践能力の高い専門的な看護師の育成が必要となる。 アウトカム指標： がん拠点病院における専門性の高い看護師を確保 がん拠点病院における研修修了者数 158 名 (H28 末) → 168 名 (H29 末)	
事業の内容 (当初計画)	①がん看護臨床実践研修プログラム検討会の開催 ②がん看護臨床実践研修の実施	
アウトプット指標 (当初の目標値)	がん看護臨床実践研修修了者 10 人程度	
アウトプット指標 (達成値)	がん看護臨床実践研修修了者 11 人	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標： がん拠点病院における研修修了者数 158 名 (H28 末) → 179 名 (H30)  (1) 事業の有効性 がん患者に対する看護ケアの充実とがん専門分野において質の高い看護師の育成を促進した。 (2) 事業の効率性 富山県看護協会に委託することで効率的な実施を図った。	
その他		

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 31 (医療分)】 看護職員の資質の向上を図るための研修事業 (保健師助産師看護師等実習指導者講習会事業)	【総事業費】 2,009 千円
事業の対象となる区域	県全体	
事業の実施主体	富山県 (富山県看護協会に委託)	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	看護職員の活躍する場合は、医療施設や介護施設にとどまらず、訪問看護などに拡大している。こうした県民ニーズの多様化に対応できる看護職員養成のため、養成所における実習指導者の資質向上が必要である。 アウトカム指標： ・基礎看護学・成人看護学の実習を行う医療機関の実習指導者 講習会修了者率 100.0% (H28) → 現状維持 (H29) ・県内の看護師学校養成所卒業生の県内医療機関への定着率 82.0% (H28) → 増加 (H29)	
事業の内容 (当初計画)	保健師助産師看護師等養成所における学生の実習施設には、実習指導者を 1 名以上配置することから、実習指導者を養成するための講習会を開催する。	
アウトプット指標 (当初の目標値)	実習指導者講習会の参加者数 (50 人)	
アウトプット指標 (達成値)	実習指導者講習会の参加者数 (35 人)	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標： ・基礎看護学・成人看護学の実習を行う医療機関の実習指導者 講習会修了者率 100% (H28) → 100% (H29) ・県内の看護師学校養成所卒業生の県内医療機関への定着率 82.0% (H28) → 81.4% (H29) <b>(1) 事業の有効性</b> 看護教育における実習指導者が、実習の意義や役割を理解し、効果的な実習指導ができるような必要な知識や技術を修得することにつながった。 <b>(2) 事業の効率性</b> 富山県看護協会に事業を委託することで、昨年の研修評価を踏まえ効率的に実施した。	
その他		

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 32 (医療分)】 看護職員の資質の向上を図るための研修事業 (看護教員継続研修事業)	【総事業費】 918 千円
事業の対象となる区域	県全体	
事業の実施主体	富山県 (富山県看護教育機関連絡協会に委託)	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	看護職員の活躍する場は、医療施設や介護施設、訪問看護などに拡大し、医療の高度化、県民ニーズの多様化に対応できる看護職員養成のため、看護教員の資質向上が必要である。	
	アウトカム指標： 国家試験受験者の合格率 (大学・短大を除く) 保健師 100%、助産師 100%、看護師 95.7% (H28) → 増加 (H29)	
事業の内容 (当初計画)	医療の高度化、県民ニーズの多様化に対応できる看護職員を養成するため、看護師養成所の教員に対して、キャリア (新任期、中堅期、管理期) に応じた研修会を開催し、看護教員の資質向上を図る。(研修種別：5 種)	
アウトプット指標 (当初の目標値)	看護教員継続研修の参加者数 (200 人)	
アウトプット指標 (達成値)	看護教員継続研修の参加者数 (282 人)	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標： 国家試験受験者の合格率 (大学・短大を除く) 保健師 100%、助産師 100%、看護師 95.7% (H28) →保健師 100%、助産師 100%、看護師 96.1% (H29)	
	(1) 事業の有効性 看護職員の成長階級別に応じた研修会を実施することで、看護教員の資質の向上につながった。 (2) 事業の効率性 富山県看護教育機関連絡協議会に事業を委託することで看護教員が必要とする研修会を効率的に実施した。	
その他		

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 33 (医療分)】 看護職員の資質の向上を図るための研修事業 (資質向上実務研修事業)	【総事業費】 1,095 千円
事業の対象となる区域	県全体	
事業の実施主体	富山県 (一部を県看護協会に委託)	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	看護職員の活躍する場は、医療施設や介護施設、訪問看護などに拡大し、医療の高度化、県民ニーズの多様化に対応できる看護職員の資質向上が必要である。小規模医療機関では、看護職員が長期間職場を離れることが難しく、研修を受ける機会が少ないことから、医療圏ごとに研修を開催する。	
	アウトカム指標： ・人口 10 万人当たり看護職員数 1,483 人 (H26) →1,640 人 (H29) ・前年度末の看護職員数に対する離職率 5.9% (H27) → 毎年 6.0%以下維持	
事業の内容 (当初計画)	小規模医療機関等の看護職員の資質向上を図るため、医療安全や感染管理等の専門的な内容について研修会を開催する。 各厚生センター：各医療圏医療機関を対象 富山県看護協会：富山市内医療機関を対象	
アウトプット指標 (当初の目標値)	看護職員研修参加者 (700 人)	
アウトプット指標 (達成値)	看護職員研修参加者 (697 人)	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標： 看護職員数は 2 年毎の医療従事者届出で確認しており、観察できなかったが、看護職員数は平成 26 年から平成 28 年にかけて増加している。 ・人口 10 万人当たり看護職員数 1,483 人 (H26) →1,564.7 人 (H28) 看護職員の離職率は、調査中のため観察できなかった。 ・前年度末の看護職員数に対する離職率 5.9% (H27) → 7.8% (H28)	
	(1) 事業の有効性	

	<p>自施設で研修体制がない小規模施設等で働く看護職員の資質向上につながった。</p> <p><b>(2) 事業の効率性</b></p> <p>富山県看護協会に事業を委託することで効率的な実施を図った。また、各厚生センターで研修をすることで、地域に応じた研修内容を取り入れることができた。</p>
その他	

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 34 (医療分)】 看護職員の資質の向上を図るための研修事業 (認定看護師教育課程運営費補助)	【総事業費】 8,713 千円
事業の対象となる区域	県全体	
事業の実施主体	富山県看護協会	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	病院の看護職員の未充足への対応、また、今後、介護老人施設などでの看護職員の需要の増加が見込まれることから、看護職員の養成が必要。	
	アウトカム指標： ・人口 10 万人当たり看護職員数 1,483 人 (H26)→1,640 人 (H29) ・認定看護師数 222 人 (H28) →247 人 (H29)	
事業の内容 (当初計画)	認定看護師教育課程を県立総合衛生学院に設置することにより、県内看護師の認定看護師資格取得を促進し、高度な専門性を生かした看護実践による県全体の看護の質及び看護師の職場定着率の向上を図る。	
アウトプット指標 (当初の目標値)	認定看護師教育課程開講 受講生約 25 人	
アウトプット指標 (達成値)	認定看護師教育課程 受講生 24 人修了	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標： ・認定看護師数 222 人 (H28) →277 人 (H30.8 月現在) ・人口 10 万対 26.23 人 (全国順位 1 位) 看護職員数は 2 年毎の医療従事者届出で確認しており、観察できなかったが、看護職員数は平成 26 年から平成 28 年にかけて増加している。 ・人口 10 万人当たり看護職員数 1,483 人 (H26) →1,564.7 人 (H28)	
	(1) 事業の有効性 認定看護師教育課程を設置以降、県内看護師が受講しやすい体制が整い、認定者の増加・質の高い看護の提供に繋がっている。 (2) 事業の効率性 運営を行う看護協会を財政的に支援することにより、効	

	率的に実施した。
その他	

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 35 (医療分)】 看護職員の資質の向上を図るための研修事業 (特定行為研修支援事業)	【総事業費】 107 千円
事業の対象となる区域	県全体	
事業の実施主体	富山県	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	高齢者の増加に伴い医療需要が増大し、病院や在宅医療などにおいて安全・迅速に一定の診療の補助 (特定行為) を行う看護師の確保が必要である。 アウトカム指標： ・特定行為研修修了者 0 人 (H28) → 10 人 (H29)	
事業の内容 (当初計画)	県外の指定研修機関に看護師を派遣する施設に対して、受講料の一部を助成し、特定行為を行う看護師を確保することで、地域における患者の状態に応じた効果的・効率的な医療の提供に資する。	
アウトプット指標 (当初の目標値)	対象人数 10 人	
アウトプット指標 (達成値)	対象人数 1 人	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標： ・特定行為研修修了者 0 人 (H28) → 3 人 (H29) <b>(1) 事業の有効性</b> 県内の指定研修機関が 1 箇所であることから、県外の指定研修機関を受講しやすい体制を整えた。 <b>(2) 事業の効率性</b> 県外の指定研修機関の研修修了者を増やすことで、各医療機関等における特定行為に関する体制の検討を促す。	
その他		

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 36 (医療分)】 離職防止を始めとする看護職員の確保 対策事業 (看護普及推進事業)	【総事業費】 770 千円
事業の対象となる区域	県全体	
事業の実施主体	富山県 (富山県看護協会に委託)	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	病院の看護職員の未充足への対応のため、看護師確保対策が必要 アウトカム指標： ・ 県内高等学校から県内の看護系高等教育機関への進学者 312 人 (H28) → 毎年 300 人程度 ・ 人口 10 万人当たり看護職員数 1,483 人 (H26) →1,640 人 (H29)	
事業の内容 (当初計画)	小中学生など若年層に対し、看護の体験や講義など普及啓発を行い、看護についての理解や関心を高め、看護職員の確保を図る。	
アウトプット指標 (当初の目標値)	看護師等養成学校における看護体験学習参加者 約 300 人	
アウトプット指標 (達成値)	看護師等養成学校における看護体験学習参加者 450 人	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標： ・ 県内高等学校から県内の看護系高等教育機関への進学者 348 人 (H29) 看護職員数は 2 年毎の医療従事者届出で確認しており、観察できなかったが、看護職員数は平成 26 年から平成 28 年 にかけ増加している。 ・ 人口 10 万人当たり看護職員数 1,483 人 (H26) →1,564.7 人 (H28) <b>(1) 事業の有効性</b> 小中学生などの若年層やその保護者等に対し看護の体験や講義など普及啓発を行うことで、効果的に看護についての理解や関心を高めることができた <b>(2) 事業の効率性</b> 富山県看護協会に委託することで効率的に実施した。	
その他		

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 37 (医療分)】 離職防止を始めとする看護職員の確保 対策事業 (看護職員職場定着支援事業)	【総事業費】 1,219 千円
事業の対象となる区域	県全体	
事業の実施主体	富山県	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	新卒看護職員の離職が増加していることから、新卒看護職員の置かれている実態を把握し、早期離職の防止が必要である。	
	アウトカム指標： ・前年度末の看護職員数に対する離職率 5.9% (H27) → 毎年 6.0%以下維持 ・新人看護職員離職率 4.3% (H27) → 毎年 4.0%以下	
事業の内容 (当初計画)	①看護職員育成モデル病院の取組み ・支援者の派遣による体制整備支援 ・合同検討会 ②新卒看護職員研修会 県内病院の新卒看護職員を対象とした講義や意見交換	
アウトプット指標 (当初の目標値)	新卒看護職員研修参加者 300 名	
アウトプット指標 (達成値)	新卒看護職員研修参加者 360 名	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標： 看護職員離職率は、調査中のため観察できなかった。 ・新人看護職員離職率 4.3% (H27) → 6.0% (H28) ・前年度末の看護職員数に対する離職率 5.9% (H27) → 7.8% (H28)	
	(1) 事業の有効性 県内の病院に勤務する看護職員に、講義や相互交流を通して、日常業務における課題とその対処方法について理解してもらうとともに、看護職員としての自覚や意欲を高め、職場の定着を促進したと考える。 (2) 事業の効率性 県東部・県西部それぞれ 1 階ずつと効率的に実施した。	
その他		

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 38 (医療分)】 離職防止を始めとする看護職員の確保 対策 (看護師等免許保持者届出事業)	【総事業費】 1,580 千円
事業の対象となる区域	県全体	
事業の実施主体	富山県 (富山県看護協会に委託)	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	国の推計では潜在看護職員数は 71 万人とされており、少子化が進む中、看護職員の人材確保を着実に進めていくためには、看護師等の潜在化の防止と復職支援を強化する必要がある。	
	アウトカム指標： 前年度末の看護職員数に対する離職率 5.9% (H27) → 毎年 6.0%以下維持	
事業の内容 (当初計画)	看護師等免許保持者のナースセンターへの届出情報の登録・管理や離職者への情報提供等を行う。	
アウトプット指標 (当初の目標値)	看護師等免許保持者届出数 病院退職者の 70%程度	
アウトプット指標 (達成値)	届出数 303 人	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標： 看護職員離職率は、調査中のため観察できなかった。 ・前年度末の看護職員数に対する離職率 5.9% (H27) → 7.8% (H28)	
	(1) 事業の有効性 潜在化を予防するには、離職時から免許保持者の情報を把握し活用することが効果的と考えられる。 (2) 事業の効率性 富山県看護協会に委託することで効率的に実施した。	
その他		

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 39 (医療分)】 看護師等養成所における教育内容の向上を図るための体制整備事業 (看護師等養成所運営補助事業)	【総事業費】 137,345 千円
事業の対象となる区域	県全体	
事業の実施主体	看護師等養成所	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	病院の看護職員の未充足への対応、また、今後、介護老人施設などでの看護職員の需要の増加が見込まれることから、看護職員の確保が必要。	
	アウトカム指標： 県内の看護師学校養成所卒業生の県内医療機関への定着率 82.0% (H28) → 増加 (H29)	
事業の内容 (当初計画)	看護師養成所の教育内容の充実を図るための専任教員経費、部外講師謝金及び実習、事務職員経費等の運営費を補助し、看護職員の確保を支援する。	
アウトプット指標 (当初の目標値)	看護師等養成所の運営 (6 校 7 課程)	
アウトプット指標 (達成値)	看護師等養成所の運営 (6 校 7 課程)	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標： 県内の看護師学校養成所卒業生の県内医療機関への定着率 82.0% (H28) → 81.4% (H29)	
	<p><b>(1) 事業の有効性</b> 看護師等養成所の教育内容の充実を図るための専任教員経費、部外講師謝金及び実習費、事務職員経費等の運営費を補助し、看護職員の養成を支援することで、より充実した教育環境の中で優秀な看護職員を養成することができ、県の看護水準の向上につながった。</p> <p><b>(2) 事業の効率性</b> 学生の人数、研修の実施や派遣の有無等、各々の養成所の運営状況に見合った補助をすることで、効率的に実施できた。</p>	
その他		

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 40 (医療分)】 看護職員が都道府県内に定着するための支援 (看護学生修学資金)	【総事業費】 17,776 千円
事業の対象となる区域	県全体	
事業の実施主体	富山県	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	病院の看護職員の未充足への対応のため、看護師確保対策が必要。	
	アウトカム指標： 富山大学看護学部卒業生の県内医療機関への定着率 60.0% (H28) → 増加 (H29)	
事業の内容 (当初計画)	将来富山県内において、看護職員として業務に従事しようとする看護学生に対し、修学資金を貸与することにより、その修学を容易にし、もって富山県内における看護職員の確保及び資質の向上に資する。	
アウトプット指標 (当初の目標値)	修学資金貸与学生 新規 20 人	
アウトプット指標 (達成値)	修学資金貸与学生 新規 4 人	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標： 富山大学看護学部卒業生の県内医療機関への定着率 60.0% (H28) → 56.2% (H29)	
	<p>(1) 事業の有効性 本事業の実施により、県内医療機関への看護師の確保・定着及び資質の向上に繋がっている。</p> <p>(2) 事業の効率性 修学資金の貸与により、県内医療機関への就業を促すことができおり、効率的・効果的な基金の運用が図られた。</p>	
その他		

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 41 (医療分)】 看護職員が都道府県内に定着するための支援 (富山大学寄附講座 (高度専門看護教育講座、在宅看護講座) 設置	【総事業費】 13,250 千円
事業の対象となる区域	県全体	
事業の実施主体	富山県	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	小児や周産期などの分野において、より高度な専門知識を備えた看護実践能力を有する看護職員が必要とされている。また、在宅医療や訪問看護の推進を受け、在宅分野においても看護職員の育成と資質向上が求められている。	
	アウトカム指標： 関連する分野※の認定看護師数 H26：59 人→H31：110 人 ※小児救急、新生児集中ケア、不妊症、摂食・嚥下、訪問看護、緩和ケア、皮膚・排泄ケア	
事業の内容 (当初計画)	富山大学に下記の寄附講座を設置する。 【高度専門看護講座】 ①高度看護実践能力の基盤となる専門知識と技能に関する研究 ②小児・周産期看護：小児・周産期領域に勤務する看護職員の人材育成及び小児・周産期領域に関する研究 ③看護職員のメンタルヘルスやストレスマネジメント教育の支援体制整備に関する研究 【在宅看護講座】 ①在宅看護実践教育方法の開発事業 ②在宅療養を推進するための実践・研究活動支援事業 ③在宅看護実践に関する調査事業	
アウトプット指標 (当初の目標値)	講座受講者数約 500 人	
アウトプット指標 (達成値)	講座受講者数 787 人	
事業の有効性・効率性	事業終了 1 年以内のアウトカム指標 関連する分野の認定看護師数 H26：59 人→H29：104 人	
	(1) 事業の有効性 県内医療機関等に勤務する看護職員のキャリアアップを支援することにより、看護職員の確保・定着に有効。 (2) 事業の効率性	

	小児や周産期、在宅などの今特に必要とされている分野の高度な専門知識を備えた看護師を効率的に養成することができる。
その他	

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 42 (医療分)】 医療機関と連携した看護職員確保対策 の推進事業 (看護職員就業支援事業)	【総事業費】 3,302 千円
事業の対象となる区域	県全体	
事業の実施主体	富山県 (県看護協会に委託)	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	本県の看護職員数は毎年増加傾向にあるものの、看護職員の職域は福祉施設や在宅看護へと拡大しており、依然として不足感があるため、引き続き再就業支援など看護職員の確保に取り組む必要がある。	
	アウトカム指標： 人口 10 万人当たり看護職員数 1,483 人 (H26) →1,640 人 (H29)	
事業の内容 (当初計画)	県内 7 箇所のハローワークとナースセンターサテライト (高岡・新川・砺波の各厚生センター) に毎月 1 回、看護職就業支援相談員を派遣し、就業等を希望する看護師等の相談等に応じる。	
アウトプット指標 (当初の目標値)	看護職就業相談件数 1,000 件	
アウトプット指標 (達成値)	就業アドバイザーによる相談件数 ハローワーク (7 箇所) 127 件、サテライト (3 箇所) 7 件	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標： 看護職員数は 2 年毎の医療従事者届出で確認しており、観察できなかったが、看護職員数は平成 26 年から平成 28 年にかけて増加している。 ・人口 10 万人当たり看護職員数 1,483 人 (H26) →1,564.7 人 (H28)	
	<p>(1) 事業の有効性</p> <p>ナースセンター機能を身近な地域で実施することにより、富山県内の看護師等が等しくサービスを受ける機会が得られ、潜在看護師等の就業を促進したと考える。</p> <p>(2) 事業の効率性</p> <p>富山県看護協会に委託することで効率的に実施した。</p>	
その他		

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 43 (医療分)】 地域包括ケアの拠点となる病院・薬局における薬剤師の確保支援 (薬剤業務体験学習・薬剤師発掘セミナー事業)	【総事業費】 1,537 千円
事業の対象となる区域	県全体	
事業の実施主体	富山県 (一部、富山県薬剤師会に委託)	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	近年、チーム医療や在宅医療での薬剤師の重要性が高まってきたこと等から、県内における薬剤師の確保に向けた取組みが求められている。	
	アウトカム指標：人口 10 万人当たり薬剤師数 265.7 人 (H26) → 現状以上 (H36)	
事業の内容 (当初計画)	①中学生、高校生に対し、薬の専門家としての薬剤師への興味と理解を深めることにより、医療の担い手として、また「くすりの富山」を支える重要な職業としての薬剤師の人材確保の裾野を広げることを目的に、薬局等において体験学習を実施する。 ②薬剤師確保のため、中高生及びその保護者等を対象とした薬学部への進学を促すセミナーを開催する。	
アウトプット指標 (当初の目標値)	薬剤業務体験学習事業実施 (20 回) セミナー開催 (1 回)	
アウトプット指標 (達成値)	薬剤業務体験学習事業実施 (30 回) セミナー開催 (1 回)	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標： 医師・歯科医師・薬剤師調査が 2 年に 1 度の調査であり、観察できなかった。 ・人口 10 万人当たり薬剤師数 265.7 人 (H26) → 265.1 人 (H28)	
	<p>(1) 事業の有効性</p> <p>参加者へ実施したアンケートの結果、約 9 割の参加者が「将来薬剤師になりたいと思う」と回答しており、体験学習、セミナーを通して、薬剤師への興味と理解が深まったと考える。</p> <p>(2) 事業の効率性</p> <p>体験学習について、(公社) 富山県薬剤師会に事業を委託</p>	

	<p>することにより、県内全域の薬局等が参加して体験学習の機会を提供することで、効率的に事業を行った。</p> <p>セミナーの開催により、薬学部への進学、教育等、様々な関係者から具体的な説明を受けることができた。</p>
その他	

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 44 (医療分)】 勤務環境改善支援センターの運営事業 (医療勤務環境改善支援センター運営事業)	【総事業費】 1,851 千円
事業の対象となる区域	県全体	
事業の実施主体	富山県	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	医療従事者の離職防止や医療安全の確保を目的として、各医療機関における勤務環境改善の取組みに対して、総合的・専門的な支援を行い、医療従事者の勤務環境の改善を促進するための拠点としての機能を確保する必要がある。	
	アウトカム指標：前年度末の看護職員数に対する離職率 5.9% (H27) → 毎年 6.0%以下維持	
事業の内容 (当初計画)	医療従事者の勤務環境を改善することで離職防止や医療安全の確保を図るため、各医療機関における「勤務環境改善計画」の策定等に対して労務管理と医業経営の両面から一体的な指導や助言を行う「医療勤務環境改善支援センター」を設置し、運営する。	
アウトプット指標 (当初の目標値)	センターの支援により勤務環境改善計画を策定する 医療機関数：3 病院 勤務環境改善に向けたセルフチェックに取り組む 病院数：県内病院の 60%程度	
アウトプット指標 (達成値)	センターの支援により勤務環境改善計画を策定する 医療機関数：3 病院 勤務環境改善に向けたセルフチェックに取り組む 病院数：県内病院の 66%程度	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標： 看護職員の離職率は、調査中のため観察できなかった。 ・前年度末の看護職員数に対する離職率 5.9% (H27) → 7.8% (H28)	
	<p>(1) 事業の有効性</p> <p>県内の医療機関における勤務環境改善の取組みを支援し、医療従事者の離職防止や安全な医療の提供につながっている。</p> <p>(2) 事業の効率性</p> <p>ニーズ調査や訪問相談を行い、各医療機関に合った支援</p>	

	を行っている。
その他	

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 45 (医療分)】 各医療機関の勤務環境改善や再就業促進の取組への支援事業 (病院内保育所運営費補助事業)	【総事業費】 22,189 千円
事業の対象となる区域	県全体	
事業の実施主体	病院内保育を運営する医療機関	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	医療提供体制を維持、向上させるため、看護職員等の離職防止、勤務環境改善等がますます重要となっている。	
	アウトカム指標： ・前年度末の看護職員数に対する離職率 5.9% (H27) → 毎年 6.0%以下維持 ・新人看護職員離職率 4.3% (H27) → 毎年 4.0%以下	
事業の内容 (当初計画)	交代勤務のある医療機関の職員の乳幼児の保育を行い、離職防止及び再就職の促進を図る。 (1)病院内保育施設の運営 (2)病児等保育の実施 (3)24 時間保育の実施 (4)緊急一時保育の実施 (5)児童保育の実施 (6)休日保育の実施 ※(2)～(6)については、実施内容により、県補助要綱の要件を満たす場合に加算する。	
アウトプット指標 (当初の目標値)	病院内保育所の設置 (30 施設)	
アウトプット指標 (達成値)	病院内保育所の設置 (30 施設)	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標： 看護職員離職率は、調査中のため観察できなかった。 ・新人看護職員離職率 4.3% (H27) → 6.0% (H28) ・前年度末の看護職員数に対する離職率 5.9% (H27) → 7.8% (H28)	
	(1) 事業の有効性 病院内保育所の運営により、看護職員や女性医師が育児をしながら働くことができる環境が整った。 (2) 事業の効率性 病院内保育所の運営状況に見合った補助を行い、効率的に実施した。	
その他		

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 46 (医療分)】 休日・夜間の小児救急医療体制の整備事業 (小児救急医療支援事業)	【総事業費】 2,325 千円
事業の対象となる区域	新川圏	
事業の実施主体	黒部市民病院	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	新川医療圏において、休日夜間の小児の 2 次救急医療を担う医療機関は黒部市民病院のみであるため、同病院の体制整備を図る必要がある。	
	アウトカム指標： ・新川圏 (黒部市民病院) の小児の救急患者の数 4,445 人 (H26) →4,445 人 (H29) ・小児 2 次救急医療体制整備済地区 4 医療圏 (H27) →4 医療圏 (H29)	
事業の内容 (当初計画)	新川医療圏において、休日夜間の小児の 2 次救急医療は、黒部市民病院しか提供することができないことから、他の医療機関に輪番がまわってきた際、当該診療を代わりに受け持つことで、同医療圏の小児 2 次救急医療体制の維持と充実を図る。	
アウトプット指標 (当初の目標値)	小児救急医療支援事業の実施日 (60 日)	
アウトプット指標 (達成値)	小児救急医療支援事業の実施日 (60 日)	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標： ・新川圏 (黒部市民病院) の小児の救急患者の数 4,445 人 (H26) →3,560 人 (H29) ・小児 2 次救急医療体制整備済地区 4 医療圏 (H27) →4 医療圏 (H29)	
	<b>(1) 事業の有効性</b> 小児初期救急センター等の初期救急医療施設及び救急患者の搬送機関との円滑な連携体制のもと、休日・夜間における入院治療を要する小児の重症患者の医療を確保した。 <b>(2) 事業の効率性</b> 事業主体に事業費の 1/3 の負担を求め効率的に実施した。	
その他		

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業	
事業名	【NO. 47 (医療分)】 電話による小児患者の相談体制の整備 事業 (小児救急電話相談事業)	【総事業費】 7,022 千円
事業の対象となる区域	県全体	
事業の実施主体	富山県	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニ ーズ	子どもの急病に対して早期に治療してほしいと願う親の不安を背景に、必ずしもすぐに受診する必要のない患者についても救急病院で受診することが多く、救急病院の小児科医の負担が増大している。	
	アウトカム指標： 2次・3次救急医療機関の軽症受診者の割合 73.8% (H26) →72%(H29)	
事業の内容 (当初計画)	小児患者向けの夜間等の電話相談体制を整備し、保護者等の不安の解消を図り、もって地域の小児救急医療体制の補強と医療機関の機能分化を推進するとともに、併せて全国統一番号 (＃8000) をプッシュすることにより、富山県の相談窓口に自動転送され、患者の症状に応じた適切な医療が受けられるようにする。	
アウトプット指標 (当初の目標値)	＃8000の相談 (年間 6,000 件)	
アウトプット指標 (達成値)	＃8000の相談 (年間 6,477 件)	
事業の有効性・効率性	事業終了後 1 年以内のアウトカム指標： 2次・3次救急医療機関の軽症受診者の割合 73.8% (H26) →68.8%(H29)	
	<p>(1) 事業の有効性 保護者等の不安の解消をはかり、もって地域の小児救急医療体制の補強と、2次・3次を担う医療機関との機能分化を推進した。</p> <p>(2) 事業の効率性 電話相談事業を行う民間事業者に委託して実施することにより、効率的な実施を図った。</p>	
その他		

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 1 (介護分)】 地域包括ケア推進を目的とした協議会の設置・運営事業	【総事業費】 1,094 千円
事業の対象となる区域	富山県全域	
事業の実施主体	①富山県、②富山県社会福祉協議会	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	①高齢者が住み慣れた自宅や地域で、安心して生活できる体制の構築 ②多様な保健・福祉ニーズに対応できる人材の養成・確保 アウトカム指標： ①地域包括ケアシステムの構築の推進 ②介護サービスにおける介護職員数の増加	
事業の内容（当初計画）	①住民団体や事業者団体、職能団体、行政を構成員とし、県内での地域包括ケアシステム構築に向けた取組みについて検討する「富山県地域包括ケアシステム推進会議」を設置・運営する。 ②福祉・介護ニーズの増大や多様化・高度化に対応し、将来にわたって福祉・介護ニーズに的確に対応できる人材を安定的に確保するために、社会福祉施設経営者団体・職能団体・養成機関・行政機関等で構成する「福祉人材確保対策会議」を設置・運営する。	
アウトプット指標（当初の目標値）	①開催回数 1 回 ②開催回数 4 回（本会議 2 回、ワーキンググループ 2 回）	
アウトプット指標（達成値）	①開催回数 1 回 ②開催回数 4 回（本会議 2 回、ワーキンググループ 2 回）	
事業の有効性・効率性	アウトカム指標： 介護サービスにおける介護職員数の増加 厚生労働省が実施している「介護サービス施設・事業所調査」の結果を指標としており、29 年度の介護職員数については現時点で発表されていない。 (参考：富山県における介護関連職種の有効求人倍率) 平成 29 年 4 月 4.11 倍→平成 30 年 4 月 4.21 倍 (富山労働局発表)	
	<b>(1) 事業の有効性</b>	

	<p>①住民団体や事業者団体など多様な関係者により地域包括ケアの構築に向けて協議し、具体的な取組み事項を推進した。</p> <p>②福祉人材確保の現状を示し、各団体の取組み状況及び県で実施する福祉人材確保対策事業についてそれぞれの立場から意見を出し合ったことで、より実践的な事業実施につなげた。</p> <p><b>(2) 事業の効率性</b></p> <p>①本会議を開催し、県・市町村の取組状況を報告するとともに、当年度の取組方針を決定し、すみやかに具体的取組みに着手したことで、事業効果が高まった。</p> <p>②年度内で時期をずらし、また、本会議前にWGを開催したことにより、福祉人材確保対策事業への各団体の意見を効率的に具体化・反映できた。</p>
その他	

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【No.2 (介護分)】 地域包括ケア普及啓発事業	【総事業費】 3,613 千円
事業の対象となる区域	富山県全域	
事業の実施主体	①、②富山県 ③「介護の日 in とやま」実行委員会（構成団体：富山県老人福祉施設協議会他 12 団体） ④富山県（介護福祉士養成校へ委託）	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	①、②高齢者が住み慣れた自宅や地域で、安心して生活できる体制の構築 ③、④多様な保健・福祉ニーズに対応できる人材の養成・確保	
	アウトカム指標： ①高齢者を地域で支える活動の拡大 ②県民に担い手として参加してもらう気運の醸成 ③、④介護サービスにおける介護職員数の増加	
事業の内容（当初計画）	①地域包括ケア活動を実践する団体を募集・登録し、HP 等で登録団体を公表する。また、当該活動に積極的な団体を顕彰する。 ②地域包括ケアについて県民の理解を深めるためのフォーラムを開催する。 ③「介護の日」キャンペーンイベントとして、介護に関係する団体が連携して、福祉・介護の仕事の重要性や魅力を広く一般県民に広めるためのイベントを開催する。 ④「福祉・介護フォーラム」として、地域住民等を対象に、福祉・介護の仕事の意義や、やりがいを理解してもらうためのセミナーを開催する。	
アウトプット指標（当初の目標値）	①登録団体：200、顕彰団体：8 ②参加者約 300 名（年 1 回開催） ③参加者約 500 名 ④参加者約 300 名	
アウトプット指標（達成値）	①登録団体 214、顕彰団体：7 ②参加者 320 名（年 1 回開催） ③参加者 1,264 名	

	④参加者 133 名
事業の有効性・効率性	<p>アウトカム指標：</p> <p>県民に担い手として参加してもらう気運の醸成  フォーラム参加者数 320 人</p> <p>介護サービスにおける介護職員数の増加  厚生労働省が実施している「介護サービス施設・事業所調査」の結果を指標としており、29 年度の介護職員数については現時点で発表されていない。</p> <p>(参考：富山県における介護関連職種の有効求人倍率)  平成 29 年 4 月 4.11 倍→平成 30 年 4 月 4.21 倍  (富山労働局発表)</p> <p><b>(1) 事業の有効性</b></p> <p>①、②民間企業、協同組合、社会福祉法人などで新たな生活支援サービスが始まるなど、高齢者等の生活を支える担い手となる意識が県民に広がりつつある。</p> <p>③、④福祉・介護の仕事の重要性や魅力を広く一般県民に周知するイベントを開催することで、多くの方に介護職への興味・関心を持ってもらうことができた。</p> <p><b>(2) 事業の効率性</b></p> <p>①、②県民の参加意識が高まるよう、住民団体や事業者団体等の多様な関係者からなる地域包括ケアシステム推進会議委員や市町村を通じて呼び掛けを行った。</p> <p>③、④実際に介護の職に就いている方や介護職を目指している学生がスムーズに参加できるよう、事業の実施主体を介護関係団体、介護福祉士養成校とした。</p>
その他	

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 3 (介護分)】 介護人材参入促進事業	【総事業費】 1,655 千円
事業の対象となる区域	富山県全域	
事業の実施主体	富山県 ①介護福祉士養成校へ委託 ②出前講座：介護福祉士養成校へ委託 バスツアー：富山県社会福祉協議会へ委託 ③富山県ホームヘルパー協議会へ委託 ④介護福祉士養成校協会へ委託 ⑤富山県介護福祉士会、介護労働安定センター富山支所へ委託	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	多様な保健・福祉ニーズに対応できる人材の養成・確保 アウトカム指標：介護サービスにおける介護職員数の増加	
事業の内容（当初計画）	①介護福祉士養成校の教員が中学校を訪問し、介護の仕事の魅力・やりがいについて講座を行うことで、福祉・介護に対する興味・関心を高める。 ②進路決定を間近に控えた高校生を対象として、福祉の仕事の魅力を深く理解してもらうための取組みとして、高校生への出前講座・高校生等の福祉の魅力体験バスツアーを実施する。 ③現任のホームヘルパーが介護員養成研修機関等を訪問し、介護職員初任者研修受講者等を対象に、ホームヘルパーの仕事の魅力・やりがいについて出前講座を実施する。 ④介護の仕事に関する基礎知識等をまとめた入門的なガイドブックを作成し、県内の高校生 1 年生に配付する。 ⑤介護周辺業務を専門に担う「介護サポーター（助手）」を養成するための研修を行う。	
アウトプット指標（当初の目標値）	①開催回数 12 回、参加人数 360 名 ②出前講座：開催回数 13 回、参加人数 260 名 バスツアー：開催回数 2 回、参加人数 140 名 ③開催回数 6 回程度 ④冊子配付 12,000 部	

	⑤30名（2日間）×4回
アウトプット指標（達成値）	<p>①開催回数 11回、参加人数 655名</p> <p>②出前講座：開催回数 14回、参加人数 350名 バスツアー：開催回数 4回、参加人数 102名</p> <p>③開催回数 5回</p> <p>④冊子配付 12,000部</p> <p>⑤94名（2日間）×4回</p>
事業の有効性・効率性	<p>アウトカム指標：</p> <p>介護サービスにおける介護職員数の増加 厚生労働省が実施している「介護サービス施設・事業所調査」の結果を指標としており、29年度の介護職員数については現時点で発表されていない。 (参考：富山県における介護関連職種の有効求人倍率) 平成29年4月 4.11倍→平成30年4月 4.21倍 (富山労働局発表)</p> <p><b>(1) 事業の有効性</b></p> <p>中高生を対象とした講義や福祉の現場を見学するバスツアーの実施により、福祉の仕事の魅力の理解を促し、将来の進路決定の選択肢の一つとして興味・関心を引くことができたと考える。</p> <p>また、一般向けの参入促進研修では中高年齢者を中心とした幅広い介護人材の確保につながったと考える。</p> <p>また、介護員養成研修機関の受講生を対象に現任のホームヘルパーによる出前講座を行ったことで、ホームヘルパーの業務に対する理解が高まり、施設等だけでなく訪問介護事業所も就職先の一つとして関心を引くことができたと考える。</p> <p><b>(2) 事業の効率性</b></p> <p>介護福祉士養成校協会及び社会福祉協議会、介護福祉司会、介護労働安定センターに委託して実施したことにより、講師の確保や見学先との調整、研修受講者の募集などを効率的に行うことができた。</p>
その他	

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 4 (介護分)】 がんばる介護職員応援事業	【総事業費】 3,998 千円
事業の対象となる区域	富山県全域	
事業の実施主体	富山県社会福祉協議会	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	多様な保健・福祉ニーズに対応できる人材の養成・確保 アウトカム指標：介護サービスにおける介護職員数の増加	
事業の内容（当初計画）	介護の現場でがんばっている職員を表彰し、そのがんばりを県民に広く紹介することにより、職員のモチベーション向上及び県民全体で介護職員を応援する機運の醸成を図る。また、がんばる職員の姿を取り上げたイメージアップ CM の制作や、がんばる職員が高校生等に対して直接魅力を PR することにより、介護のイメージアップを図る。	
アウトプット指標（当初の目標値）	職員の表彰：50 名、表彰された職員の紹介：県内主要新聞 3 紙に掲載・紹介パンフ（1,000 部）の作成配布・テレビ CM の放映（県内民放 3 局・約 10 回／日×5 日間×2 回）	
アウトプット指標（達成値）	職員の表彰 28 名 パンフレットの作成 16,000 部 CM の放映（県内民放 3 局・11 回／日×5 日間×2 回）	
事業の有効性・効率性	<p>アウトカム指標： 介護サービスにおける介護職員数の増加 厚生労働省が実施している「介護サービス施設・事業所調査」の結果を指標としており、29 年度の介護職員数については現時点で発表されていない。 (参考：富山県における介護関連職種の有効求人倍率) 平成 29 年 4 月 4.11 倍→平成 30 年 4 月 4.21 倍 (富山労働局発表)</p> <p><b>(1) 事業の有効性</b> 中堅職員を表彰することで当該職員を含めた職員のモチベーション向上によって離職防止・職場定着を図るほか、CM 等の PR により一般県民への介護職へのイメージアップを図ることで、介護人材の掘り起こし・確保につなげることができたと考える。</p>	

	<p><b>(2) 事業の効率性</b></p> <p>社会福祉協議会を実施主体としたことで、各施設との連絡調整がスムーズに進み、また、職員の推薦からCM撮影、PR冊子用取材等を効率的に実施することができた。</p>
その他	

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【No.5 (介護分)】 小学生親子夏休み福祉の仕事バスツアー	【総事業費】 998 千円
事業の対象となる区域	富山県全域	
事業の実施主体	富山県社会福祉協議会	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	多様な保健・福祉ニーズに対応できる人材の養成・確保 アウトカム指標：介護サービスにおける介護職員数の増加	
事業の内容（当初計画）	小学生親子を対象とした「夏休み福祉の仕事バスツアー」を開催し、小学生とその保護者が地域の福祉施設とその利用者を身近な存在としてとらえるとともに、介護の仕事を見学・体験することで、そのやりがいや魅力等介護の仕事について理解を深める。	
アウトプット指標（当初の目標値）	実施回数 2 回 参加者数 30 組 60 名	
アウトプット指標（達成値）	実施回数 2 回、参加者数 27 組 54 名	
事業の有効性・効率性	<p>アウトカム指標：</p> <p>介護サービスにおける介護職員数の増加</p> <p>厚生労働省が実施している「介護サービス施設・事業所調査」の結果を指標としており、29 年度の介護職員数については現時点で発表されていない。</p> <p>(参考：富山県における介護関連職種の有効求人倍率)</p> <p>平成 29 年 4 月 4.11 倍→平成 30 年 4 月 4.21 倍</p> <p>(富山労働局発表)</p>	
	<p><b>(1) 事業の有効性</b></p> <p>介護施設の見学、介護体験等を通じて、そのやりがいや魅力等介護の仕事について理解を深めてもらったことで、将来の福祉分野における人材の増加・確保に繋がるものと考ええる。</p> <p><b>(2) 事業の効率性</b></p> <p>開催地を県の東部と西部に分けて、参加者の住まいに近</p>	

	い場所を選択できるようにしたことで、参加が促進されたと考える。
その他	

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【No.6 (介護分)】 再就職支援企業出前講座事業	【総事業費】 1,942 千円
事業の対象となる区域	富山県全域	
事業の実施主体	富山県 (介護労働安定センター富山支所へ委託)	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	多様な保健・福祉ニーズに対応できる人材の養成・確保 アウトカム指標：介護サービスにおける介護職員数の増加	
事業の内容 (当初計画)	企業を訪問し、介護の仕事内容等についてのオリエンテーションを実施する。また、介護事業所の見学会を実施する。	
アウトプット指標 (当初の目標値)	・企業への出前講座 (30 名×6 回) ・介護事業所見学会 (20 名×2 回)	
アウトプット指標 (達成値)	・企業への出前講座 (開催回数 10 回、参加者数 191 名) ・介護事業所見学会 (開催回数 1 回、参加者数 24 名)	
事業の有効性・効率性	<p>アウトカム指標：</p> <p>介護サービスにおける介護職員数の増加</p> <p>厚生労働省が実施している「介護サービス施設・事業所調査」の結果を指標としており、29 年度の介護職員数については現時点で発表されていない。</p> <p>(参考：富山県における介護関連職種の有効求人倍率)</p> <p>平成 29 年 4 月 4.11 倍→平成 30 年 4 月 4.21 倍</p> <p>(富山労働局発表)</p>	
	<p><b>(1) 事業の有効性</b></p> <p>定年退職を控えた方に再就職の選択肢として福祉の仕事を具体的に意識してもらうことで、介護人材の掘り起こしや確保につなげることができたと考える。</p> <p><b>(2) 事業の効率性</b></p> <p>介護労働安定センターに委託して実施したことにより、介護未経験者への PR、事業所の実態やニーズの把握による人材のマッチング支援等を効率的に実施することができた。</p>	
その他		

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 7 (介護分)】 介護実習連携強化応援事業	【総事業費】 23 千円
事業の対象となる区域	富山県全域	
事業の実施主体	富山県 (介護福祉士養成校へ委託)	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	多様な保健・福祉ニーズに対応できる人材の養成・確保	
	アウトカム指標：介護サービスにおける介護職員数の増加	
事業の内容 (当初計画)	介護現場で即戦力として活躍できる介護福祉士を養成するとともに利用者のケアの向上を図るために、介護福祉士養成課程の介護実習を円滑かつ効果的に実施できるよう、介護施設の実習指導者を対象とした研修を実施する。	
アウトプット指標 (当初の目標値)	8 回 (2 回×4 校)	
アウトプット指標 (達成値)	8 回 (2 回×4 校)	
事業の有効性・効率性	<p>アウトカム指標：</p> <p>介護サービスにおける介護職員数の増加</p> <p>厚生労働省が実施している「介護サービス施設・事業所調査」の結果を指標としており、29 年度の介護職員数については現時点で発表されていない。</p> <p>(参考：富山県における介護関連職種の有効求人倍率)</p> <p>平成 29 年 4 月 4.11 倍→平成 30 年 4 月 4.21 倍</p> <p>(富山労働局発表)</p>	
	<p><b>(1) 事業の有効性</b></p> <p>実習指導者への研修により実践的な実習を可能とし、学生の介護職場への入職時のギャップ解消を図ることで、離職防止・職場定着の促進により介護人材の確保につなげることができたと考える。</p> <p><b>(2) 事業の効率性</b></p> <p>介護福祉士養成校に委託したことで、介護職場に就労している卒業生や実習の対象となる学生から直接ニーズの把握ができ、効果的に事業が実施できた。また、実習受入先</p>	

	介護施設との連絡調整が効率的にできた。
その他	

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 8 (介護分)】 介護職員初任者研修支援事業	【総事業費】 185 千円
事業の対象となる区域	富山県全域	
事業の実施主体	富山県	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	多様な保健・福祉ニーズに対応できる人材の養成・確保 アウトカム指標：介護サービスにおける介護職員数の増加	
事業の内容（当初計画）	介護職員が介護職員初任者研修を受講するために必要な受講料を雇用主である事業者が負担した場合に、その費用に対して助成する。	
アウトプット指標（当初の目標値）	受講支援：80 名	
アウトプット指標（達成値）	受講支援：11 名	
事業の有効性・効率性	<p>アウトカム指標： 介護サービスにおける介護職員数の増加 厚生労働省が実施している「介護サービス施設・事業所調査」の結果を指標としており、29 年度の介護職員数については現時点で発表されていない。 (参考：富山県における介護関連職種の有効求人倍率) 平成 29 年 4 月 4.11 倍→平成 30 年 4 月 4.21 倍 (富山労働局発表)</p> <p><b>(1) 事業の有効性</b> 介護現場に就労する未経験者の技術と知識を向上することにより、資質の向上・定着促進につなげることができたと考える。</p> <p><b>(2) 事業の効率性</b> 福祉事業者等が集まる会議や研修等で事業について案内を行うことで、初任者研修の受審促進となるよう努めた。</p>	
その他		

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【No.9 (介護分)】 福祉・介護人材マッチング支援事業	【総事業費】 2,743 千円
事業の対象となる区域	富山県全域	
事業の実施主体	①富山県 (富山県介護福祉士会へ委託) ②富山県社会福祉協議会 ③富山県 (富山県社会福祉協議会へ委託) ④富山県 (富山県社会福祉協議会へ委託)	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	多様な保健・福祉ニーズに対応できる人材の養成・確保	
	アウトカム指標：介護サービスにおける介護職員数の増加	
事業の内容 (当初計画)	①「介護人材移住応援員」を総合的な窓口として県内に常駐させ、首都圏介護人材向けの移住・就業相談、イベント等でのPR、移住希望者が富山県を訪れる際の連絡調整など、首都圏在住者の介護人材の移住サポートを実施する。 ②介護福祉士養成校の2年生をメインとして夏休み期間中に、主婦層や中高年層等一般求職者をメインとして秋冬に福祉職場説明会を開催する。 ③施設・事業所における詳細な求人ニーズの把握と求職者の適性の確認、就労後の適切なフォローアップ等を一体的に実施し、福祉・介護人材の円滑な参入と確実な定着を図る。 ④富山県内の介護施設の紹介及び職員の募集案内についての冊子を作成し、関係機関 (高校、養成校、ハローワーク等) や就職セミナー等で配布する。	
アウトプット指標 (当初の目標値)	①介護人材移住：移住者 3 世帯、移住案内 10 世帯 ②職場説明会：開催回数 5 回、参加者数 300 名、採用者数 100 名 ③相談窓口の設置：キャリア支援専門員 2 名配置、ハローワーク相談回数 200 回 ④1,500 部配布	
アウトプット指標 (達成値)	①介護人材移住：移住者 3 世帯、移住案内 3 世帯 ②職場説明会：開催回数 5 回、参加者数 359 名、採用者数 119 名	

	<p>③相談窓口の設置：キャリア支援専門員 2 名配置、ハローワーク相談回数 140 回</p> <p>④1,500 部配布</p>
事業の有効性・効率性	<p>アウトカム指標：</p> <p>介護サービスにおける介護職員数の増加 説明会后 119 名採用</p> <p><b>(1) 事業の有効性</b></p> <p>介護人材移住応援員が総合的な窓口となり、3 名の介護職の移住を支援できた。</p> <p>福祉職場説明会に参加した法人に対して後日調査したところ、119 名の方が採用され、介護人材の就業を支援できた。</p> <p>相談窓口の設置やオリエンテーションの実施、求人・求職者情報の提供等の強化により、人材の参入・定着を支援できた。</p> <p>職員の募集案内冊子を作成・配付することにより、福祉・介護の仕事への就職促進につなげることができた。</p> <p><b>(2) 事業の効率性</b></p> <p>介護福祉士会および社会福祉協議会へ委託等をしたことで、マッチングを効率的に実施することができた。</p>
その他	

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 12 (介護分)】 新任介護職員ネットワーク形成支援事業	【総事業費】 2,998 千円
事業の対象となる区域	富山県全域	
事業の実施主体	富山県社会福祉協議会	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	多様な保健・福祉ニーズに対応できる人材の養成・確保 アウトカム指標：介護サービスにおける介護職員数の確保	
事業の内容（当初計画）	<p>離職率が高い就業後 1～3 年未満の新任介護職員向けに他事業所職員とのつながり作りを支援することで、新任職員の早期離職防止・職場定着を図る。</p> <p>①合同入職式の開催…県内で新たに介護職に就いた職員が一堂に会する入職式を開催することで、新任職員のモチベーション向上及び他事業所職員とのネットワークづくりを促進する。</p> <p>②フォローアップ研修の開催…介護の仕事に伴う身体的・精神的不安を払拭する研修及び基本的な介護技術の習得を目指す研修を実施することで、新任職員の早期離職防止を図る。また、合同入職式で出会った社外同期と再会することでネットワークをより強固にする。</p>	
アウトプット指標（当初の目標値）	合同入職式：1 回、100 名 フォローアップ研修：8 回、延べ 320 名	
アウトプット指標（達成値）	合同入職式：1 回、96 名 フォローアップ研修：8 回、延べ 165 名	
事業の有効性・効率性	アウトカム指標： 介護サービスにおける介護職員数の確保 厚生労働省が実施している「介護サービス施設・事業所調査」の結果を指標としており、29 年度の介護職員数については現時点で発表されていない。 (参考：富山県における介護関連職種の有効求人倍率) 平成 29 年 4 月 4.11 倍→平成 30 年 4 月 4.21 倍 (富山労働局発表)	

	<p><b>(1) 事業の有効性</b></p> <p>離職率が高い就業後1～3年未満の介護職員向けに他事業所職員とのつながり作りを支援することで、新任職員の早期離職防止・職場定着を図り、介護人材の確保につなげることができた。</p> <p><b>(2) 事業の効率性</b></p> <p>社会福祉協議会が実施したことにより、就業後1～3年未満の介護職員への参加依頼及び入職式へのがんばる介護職員（昨年度表彰優秀中堅職員）への参加依頼・各種調整が効率的に行えた。</p>
その他	

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【No. 13 (介護分)】 介護キャリア段位普及促進に係るアセ ッサー講習受講支援事業	【総事業費】 362 千円
事業の対象となる区域	富山県全域	
事業の実施主体	富山県介護福祉士会	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニ ーズ	介護職員の現場でのキャリアアップを認定する仕組みの構 築 アウトカム指標：介護サービスにおける介護職員数の確保	
事業の内容（当初計画）	県内の介護施設・事業所に所属する職員に、アセッサー講 習受講料の一部を補助する。	
アウトプット指標（当初 の目標値）	アセッサー講習修了者数 50 名	
アウトプット指標（達成 値）	アセッサー講習修了者数 25 名	
事業の有効性・効率性	<p>アウトカム指標：</p> <p>介護サービスにおける介護職員数の確保</p> <p>厚生労働省が実施している「介護サービス施設・事業 所調査」の結果を指標としており、29 年度の介護職員 数については現時点で発表されていない。</p> <p>(参考：富山県における介護関連職種の有効求人倍率)</p> <p>平成 29 年 4 月 4.11 倍→平成 30 年 4 月 4.21 倍</p> <p>(富山労働局発表)</p> <p><b>(1) 事業の有効性</b></p> <p>アセッサー講習により、各施設・事業所の職業能力評価 の基準を共通化する介護キャリア段位制度の普及を促進 し、それにより人材育成を推進した。</p> <p><b>(2) 事業の効率性</b></p> <p>研修の一部をパソコン・インターネットを利用した e ラ ーニングとすることで、時間や場所を選ばず学習が可能と なり、研修の効率化が図られた。</p>	
その他		

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【No.14 (介護分)】 現任介護職員等研修支援臨時事業	【総事業費】 4,816 千円
事業の対象となる区域	富山県全域	
事業の実施主体	富山県 (福祉事業者に委託)	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	多様な保健・福祉ニーズに対応できる人材の養成・確保 アウトカム指標：介護サービスにおける介護職員数の確保	
事業の内容 (当初計画)	現任介護職員の資質向上を図るための研修への参加を促すために、以下に掲げる研修の受講中の代替職員を確保するための経費を支援する。 ①国、県、市町村または事業者団体等が実施する介護従事者向けの研修 ②県福祉カレッジが実施する介護従事者向けの研修 ③その他、介護職員等の資質向上に有益であると県が判断する研修	
アウトプット指標 (当初の目標値)	現任職員研修参加人数延べ 300 名	
アウトプット指標 (達成値)	現任職員研修参加人数延べ 266 名	
事業の有効性・効率性	<p>アウトカム指標： 介護サービスにおける介護職員数の確保 厚生労働省が実施している「介護サービス施設・事業所調査」の結果を指標としており、29 年度の介護職員数については現時点で発表されていない。 (参考：富山県における介護関連職種の有効求人倍率) 平成 29 年 4 月 4.11 倍→平成 30 年 4 月 4.21 倍 (富山労働局発表)</p> <p><b>(1) 事業の有効性</b> 現任介護職員の資質向上を図るための研修参加を促すことで、介護職員の離職防止・職場定着を図り、介護職員数の確保につなげることができたと考える。</p> <p><b>(2) 事業の効率性</b></p>	

	受託申込み後に人材募集を実施し、人材確保の見込みが立った時点で委託契約という段階を経ることで、予算額を効率的に配分することができた。
その他	

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【No.15 (介護分)】 福祉職場再就業促進事業	【総事業費】 525 千円
事業の対象となる区域	富山県全域	
事業の実施主体	富山県 (富山県介護福祉士会へ委託)	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	多様な保健・福祉ニーズに対応できる人材の養成・確保 アウトカム指標：介護サービスにおける介護職員数の増加	
事業の内容 (当初計画)	介護福祉士の資格を持ちながら介護の職に就いていない潜在介護福祉士を対象とした実態調査及び離職した介護職員の届出制度の周知を行う。	
アウトプット指標 (当初の目標値)	実態調査・届出制度周知：1,700 名	
アウトプット指標 (達成値)	実態調査・届出制度周知：1,599 名	
事業の有効性・効率性	<p>アウトカム指標： 介護サービスにおける介護職員数の増加 厚生労働省が実施している「介護サービス施設・事業所調査」の結果を指標としており、29 年度の介護職員数については現時点で発表されていない。 (参考：富山県における介護関連職種の有効求人倍率) 平成 29 年 4 月 4.11 倍→平成 30 年 4 月 4.21 倍 (富山労働局発表)</p> <p><b>(1) 事業の有効性</b> 潜在介護福祉士を対象とした実態調査を行うことにより、今後の人材確保策への有用な資料とすることができたと考える。また、平成 29 年度から開始された介護職員の届出制度の周知を行い、再就職に向けて登録を促すことにより、人材の掘り起こし・確保を図ることにつながったと考える。</p> <p><b>(2) 事業の効率性</b> 介護福祉士会に委託して実施したことにより、既に退会した元会員 (潜在介護福祉士等) への実態調査・届出制度周知を効率的に行うことができた。</p>	
その他		

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【No.16 (介護分)】 認知症高齢者対策総合研修事業	【総事業費】 3,740 千円
事業の対象となる区域	富山県全域	
事業の実施主体	富山県 ①一般社団法人富山県介護福祉士会へ委託 ②認知症介護研究・研修大府センターへ委託 ③富山県小規模多機能型居宅介護事業者連絡協議会へ委託 ④、⑥、⑦富山県医師会へ委託 ⑤、⑧国立長寿研修センターへ委託 ⑨認知症介護研究・研修東京センターへ委託 ⑩富山県歯科医師会、薬剤師会、看護協会へ委託	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	医療・介護・福祉・行政等において、認知症に対応できる人材の養成・確保 アウトカム指標：介護サービス等における認知症対応職員数の増加・確保	
事業の内容（当初計画）	①認知症対応型サービス事業所の開設者及び管理者を対象とした研修 ②認知症介護指導者研修修了者に対するフォローアップ研修 ③小規模多機能型居宅介護事業所等の計画作成担当者を対象とした研修 ④かかりつけ医認知症対応力向上研修 ⑤サポート医養成研修 ⑥サポート医フォローアップ研修 ⑦病院勤務の医療従事者向け認知症対応力向上研修 ⑧認知症初期集中支援チーム員研修 ⑨認知症地域支援推進員研修 ⑩歯科医師・薬剤師・看護職員向け認知症対応力向上研修	
アウトプット指標（当初の目標値）	①研修修了者数 60 名 ②研修修了者数 1 名 ③計画作成担当者研修修了者数 30 名 ④かかりつけ医認知症対応力向上研修受講者 80 名 ⑤サポート医養成研修 25 名 ⑥サポート医フォローアップ研修 20 名	

	<p>⑦病院勤務の医療従事者向け認知症対応力向上研修 50 名</p> <p>⑧認知症初期集中支援チーム員研修 25 名</p> <p>⑨認知症地域支援推進員研修 22 名</p> <p>⑩歯科医師 50 名、薬剤師 100 名、看護職員 100 名</p>
アウトプット指標（達成値）	<p>①研修修了者数 78 名</p> <p>②研修修了者数 1 名</p> <p>③計画作成担当者研修修了者数 25 名</p> <p>④かかりつけ医認知症対応力向上研修受講者 68 名</p> <p>⑤サポート医養成研修 17 名</p> <p>⑥サポート医フォローアップ研修 47 名</p> <p>⑦病院勤務の医療従事者向け認知症対応力向上研修 207 名</p> <p>⑧認知症初期集中支援チーム員研修 23 名</p> <p>⑨認知症地域支援推進員研修 21 名</p> <p>⑩歯科医師 53 名、薬剤師 132 名、看護職員 96 名</p>
事業の有効性・効率性	<p>アウトカム指標：</p> <p>介護サービス等における認知症対応職員数の増加・確保 720 名(上記①、③、④、⑤、⑦、⑧、⑨の計)</p> <p><b>(1) 事業の有効性</b></p> <p>①～③介護の質の向上や維持につなげることができた。</p> <p>④、⑦認知症対応が可能な、かかりつけ医及び病院勤務の医師・看護師等が増加した。</p> <p>⑤、⑥県内の認知症サポート医受講者数が大幅に増加した。</p> <p>⑧、⑨認知症初期集中支援チームや認知症地域支援推進員の設置が進んだ（H30 まで全市町村に設置）。</p> <p><b>(2) 事業の効率性</b></p> <p>①～③国や県で一括して実施して、保険者単位等で実施するよりも研修の質の均一化やコストの削減を図った。</p> <p>④、⑦ 県東部・西部の 2 か所で実施することで、研修受講者が増えるよう努めた。</p> <p>⑤、⑥認知症サポート医が不足する地域の医師を優先的に研修受講が可能となるよう努めた。</p> <p>⑧、⑨県主催でフォローアップ研修を開催し、各事業を効果的に実施できるよう努めた。</p>
その他	

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【No.18 (介護分)】 福祉用具プランナー養成研修	【総事業費】 1,230 千円
事業の対象となる区域	富山県全域	
事業の実施主体	富山県 (富山県社会福祉協議会に委託)	
事業の期間	平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	多様な保健・福祉ニーズに対応できる人材の養成・確保 アウトカム指標：介護サービスにおける介護職員数の確保	
事業の内容 (当初計画)	高齢者等が福祉用具を有効に活用し、在宅で自立した生活を送ることができるよう、福祉用具に関する情報提供を行うとともに、その身体機能等に応じて、最も適した福祉用具をコーディネートできる専門職の養成を行う。	
アウトプット指標 (当初の目標値)	受講者 60 名	
アウトプット指標 (達成値)	受講者 71 名	
事業の有効性・効率性	<p>アウトカム指標：</p> <p>介護サービスにおける介護職員数の確保</p> <p>厚生労働省が実施している「介護サービス施設・事業所調査」の結果を指標としており、29 年度の介護職員数については現時点で発表されていない。</p> <p>(参考：富山県における介護関連職種の有効求人倍率)</p> <p>平成 29 年 4 月 4.11 倍→平成 30 年 4 月 4.21 倍</p> <p>(富山労働局発表)</p> <p><b>(1) 事業の有効性</b></p> <p>福祉用具の取り扱いに関する知識や個々の福祉用具の利用方法などの専門知識を有する人材を育成することで、介護職員の質の向上、介護人材の確保につなげることができたと考える。</p> <p><b>(2) 事業の効率性</b></p> <p>研修の一部をパソコン・インターネットを利用した自宅学習とすることで、現任職員でも効率的に研修を受講することができた。</p>	
その他		